

第6章

WG委員会の設置と調査内容の検討

第6章 WG委員会の開催

6.1 WG委員会の開催

本調査の目的は、第1章の概要で示したように、原子力や原子力の平和利用に関する知識普及活動のあり方についての世論調査の結果を、各ステークホルダーに活用していただくことにある。そのためには、情報の受け手に、本調査の内容や結果の評価・分析が公正なものであると認知していただくことが重要である。

そこで、調査結果の分析・評価を行い、結果の妥当性、活用方法等について検討するため、原子力分野の学識経験者、社会心理学や社会調査等の専門家、教育関係者を中心としてワーキング委員会を設置した。

(1) 開催日と主な議事内容

1) 第1回委員会

開催日時:平成25年11月13日(水) 17:30~20:00

議事次第:

- ①「平成25年度原子力利用に関する世論調査」の概要及び事前調査報告
- ②「平成25年度原子力利用に関する世論調査」質問改訂の概要
- ③集計方法、分析方法、アウトプットレポートイメージについて

2) 第2回委員会

開催日時:平成26年1月17日(金) 18:00~20:00

議事次第:

- ①「平成25年度原子力利用に関する世論調査」調査結果報告
- ② インタビュー調査対象者およびインタビュー内容の検討について

3) 第3回委員会

開催日時:平成26年2月3日(月) 18:00~20:00

議事次第:

- ①「平成25年度原子力利用に関する世論調査」インタビュー結果報告

6. 2 第1回WG委員会

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」

第1回WG委員会 議事録

日 時: 平成 25 年 11 月 13 日(水) 17:30~20:00

場 所: 東京大学 本郷キャンパス 本部棟11階

出席者:

(委員長)

飯本 武志 東京大学 環境安全本部 主幹 准教授

(委 員)

木 村 浩 特定非営利活動法人 パブリックアウトリーチ

齋 藤 朗 株式会社社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部
部長

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

(事務局)

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・理事

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

配付資料:

- ①議事次第
- ②出席者名簿
- ③「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」概要
- ④「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要
- ⑤「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」修正前質問一覧
- ⑥「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」修正(案)

1. 開会挨拶

事務局より開会挨拶のあと、議事次第に基づき審議に入った。

2. 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」概要(p.179-181)

配布資料2に基づき、今年度の調査概要について説明した。

24年度調査において、調査モデルが非常に複雑であることや、統計学的に分析するための質問が不足している等、質問項目や調査モデルの精査が課題となったため、事前調査として原子力の社会受容性に関する文献調査を行い、調査モデルを修正、

モデルに基づき質問項目を精査した。

また、ステークホルダーに実際に活用していただくという本来の目的のために、調査結果を基に具体的な広報手法をどうすべきか等について、原子力関係者等に対するインタビューを実施したい。

調査の流れとしては本日の委員会で調査項目を確定し、調査結果をもとに原子力関係者等へのインタビューを行い、調査結果やインタビュー結果についても委員会で議論を行いたいと考えている。

3. 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要 (p.182)

配布資料4「平成25年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要に基づき、事前調査結果について説明した。

昨年度までの議論の中で、原子力の社会受容性に関しては、ベネフィット認知、リスク認知、信頼の3要素が大きくかかわっており、本調査でみることができるのはこの3点であることを確認することができた。そこで、モデル修正のために他の文献等において原子力の社会的必要性の構造に関する研究がどのようになっているのか、事前調査を行った。

基本的には、構造に関する研究では新しいものがなく、資料4に挙げているものが多少新しい研究となっている。既往の研究どおり、ベネフィット認知、リスク認知、信頼の3要素が社会受容性に対して大きく影響力を持っている点に変わりはなかったが、社会システム観、これは個人の価値観が個人志向なのかシステム思考なのかというもののだが、この社会システム観が受容性にも影響していそうだということがわかった。

昔から立地地域に住んでいる人は安全性への信頼、システム思考、個人主義志向が利用態度と結びついており、必ずしもリスク認知が影響しないが、立地に最近来た人は安全性への信頼とリスク認知が関与するというものがあり、ある意味では社会システム観というのが一つ何かあるかもしれないということである。

以上、文献を調査した結果、社会調査については継続的にどう変化しているか、また、構造の中の要因がどのように振動するかという話はあるが、原子力だけではなく科学技術一般についても社会的受容性の構造に関する新しい研究はなく、ベネフィット認知、リスク認知、信頼の3要素が社会受容性に対して大きく影響力を持っているという点は確定してよいと考えられる。

また、これらの要素に対して影響を与えるものとして、従来から議論されていた知識、性別、居住地域等に加えて、社会システム観という議論が加わった、ということが近年の研究を調査した結果であった。

以上の結果を踏まえ、調査においては、モデルをシンプルにして、むしろ上記の3項目をしっかりと測定できるものとし、プラスアルファとして、知識等をはめこみ、今までの継続性を見ながら質問項目を精査することとした。

4. 「平成25年度原子力利用に関する世論調査」質問改訂の概要(p.197-224)

配布資料4「平成25年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要および、配布資料6「平成25年度原子力利用に関する世論調査」修正(案)に基づき、質問改訂の概要について説明した。

調査項目の変更方針としては、配布資料4の「2.調査質問項目について」に記載の通り3項目を中心に質問項目を整理することにしたが、ベネフィット認知、リスク認知に関する項目が削除されたり等の経緯もあって不十分であった。そのため、これらを測定するための質問を補てんした。過去の調査票から使えるものは活用し、その他拡充すべき点は質問案に入れているので後程、議論していただければと考えている。あとは先ほどの社会システム観も追加している。

なお、知識に関しては、今までの質問形式が客観知識を問うテスト問題形式だったものを、主観知識(知っているか知っていないか)の形式に変更した。理由としては、まず、適切に客観知識を測定する問題を作成することが難しいということである。回答者の持っている知識と構造とを対応させて分析させるためには、知識の得点が柱にならないと意味がなく、そういう問題を適切に作るのが非常にむずかしいところである。また、既往の研究で知識の調査、これはマーケティング調査になるが、客観知識と主観知識の相関は0.7程度という研究結果があり、十分、主観知識で客観知識を押し量れるということ。最後に、客観知識よりも、主観知識のほうが態度の決定には大きな影響を与えるということ。以上の3点から、主観知識をしっかり分析するほうがよいであろうということで質問を修正している。

また、大きなポイントとして広報事業の効果を測定する項目が調査票に入っていたが、広報コンテンツに関する評価項目は削除した。これは、広報コンテンツがその場がない状態でそのコンテンツについて良いか悪いかを聞いても意味が薄いためである。なお、今後どのような情報提供をすべきかに関しては、調査結果を基に関係者にインタビューを行い、その結果を基に検討したい。以上が全体の方針である。

なお、配布資料5が今年の質問票、6-1が見せ消しの今年度質問案、さらに6-2は削除した質問を消したうえで調整した質問票案になっているが、続いて具体的な質問改定案について、資料6-1を基にご説明する。

まず問1から問3はある意味でテスト問題なのでここを消している。問2は主観知識を聞くものだが、別の項目に入れ込むことで対応することとした。問4、問5のイメージ問題はそのまま残しているが、資料6-2で黄色く示した順序については後程ディスカッションさせていただきたい。

問6はご存知ですかということで主観知識の基本的な聞き方になっているが、ここに、さきほどの問2地球温暖化を入れ込んだ。ここは手厚くしたいということで、選択肢案を記載しているが、これで十分かどうか議論が必要である。

問7-1、7-2は関心、問8-1は原子力に関する情報源ということで残している。

問8-2、8-3に関して、情報は情報源の信頼と結び合わせて聞いたほうがよいのではないかということで、このような提案をしている。一年間に有益性に関する情報／事故やトラブルに関する情報をどこから得たかというところを消して、情報の場合分け(有益／事故)ではなく、情報源としてメディアと情報を発信する人の場合分けをして、それぞれの信頼を聞くことで、どういうメディアからの、どういう人の発する情報源を信頼しているのかというところを細かく評価できるようにしようという意図である。

問9-1に関しては、「理解に役立つもの」を削っている。その場に媒体がないので評価ができないというところである。どういうものに興味があるかということで「参加したいもの」はとってある。問9-2インターネットに関しては昨年度の結果から母数が少なく有益な結果が得られないため削除した。

問10の質問は、ここがベネフィット認知を十分に聞きたい項目なのだが、eに広報評価が入っている等、聞き方がわかりにくい。質問改訂の経緯をみていくと、203～204ページに記載した通り、2007年1月調査開始時は「次の事項についてどのように思いますか」という質問に対して「そう思う」「そう思わない」という5段階評価の回答にして、選択肢に必要性を盛り込んでおり、シンプルにベネフィット認知を聞けるように設計されている。こちらのほうがよいのではないかということで、修正した。

問11-1に関しては信頼についての議論、専門家・原子力関係者の信頼である。問11-2信頼理由は、選択肢「信頼できない」は、信頼できない理由は信頼できないから、となり理由にならないという意見が昨年度あった経緯を踏まえ、「信頼したくないから」と変更し、選択肢「信頼したいから」と対にした。選択肢「専門家にも間違いはある」は、「専門的な知識が不十分」と変更した。また、事故から3年たち、福島を前面に押し出す選択肢は不適切になるため削除した。これに加え、信頼を構成する要素に関する研究に基づき、能力、意図、公平性、正直さ、客観性、ケアリング(配慮しているかどうか)、共感、熱意等、信頼の要素を構造化して細かく聞けるように選択肢を追加している。

問12、活躍を期待する人については、新しく追加した、誰からの情報を信頼しているかに入れ込むため削除し、問13-1、13-2は国・自治体に対する信頼ということで、問11-1、11-2と同じ項目にしている。

問14に関しては「安心して」という言葉が軽く使われており、これを削除するために、原子力に関して国や自治体にどのような取り組みを望むか、という聞き方に変更、そのうえで、微細な選択肢の修正を行った。問15、16は少し難しい信頼の話になるため削除した。

問17に関しては放射線に関する不安ということで、リスク認知に関する項目がかなり少なかったためここで聞けるものがあるのではないかということだが、選択肢は変えないといけないと考えている。

問18、高レベル放射性廃棄物処分への不安はそのまま残している。あとは問19、こ

ここではいろいろと直感・感覚、精神的豊かさ、そういった話を聞いており、個人の価値観としていろんなものが効くだろうという、検証できる素地が入っているところなので、ここにさきほどの社会システム観を追加している。

問20はニュースの選択が恣意的になり、公平ではないという点と、評価できない点を考慮し削除した。

問21-1今後活用すべきエネルギー源は残しているが、選択理由の問21-2は、どちらも複数選択で問21-1の選択肢ごとに理由が出てこないため、21-2を削除し、21-2の選択肢はベネフィット認知として、218ページの間10の選択肢に追加している。

問22から24は、福島に関する質問になるが、事故から3年たち、福島を前面に押し出す質問はそろそろふさわしくないという配慮から削除することとした。

以上が質問案になるが、かなり大きく変更しているため、ここまで変更すべきかという議論の必要があると考えている。

(討議・委員コメント)

まず、調査の方向性等について討議を行った。内容は以下の通り。

- ・委託元である電力中央研究所は大きな変更をして構わないと考えているのか。
→モデルがわかりにくい点、評価できない質問がある点は、今年度見直しを行うという仕様になっている。しかし、どの程度変更するかという具体的などころまでは話ができていない。ただ、経年変化をとってきたところに価値があると考えており、変更できるものとできないものというところが出てくるため、経年性に重きを置いて調査を進めたいと考えている。
- ・正確に経年という意味では、イメージと信頼の部分くらいになる。
- ・何を大切にするか、という点が重要である。変更する時期だとは思いますが、続けてきた一問一問を、使い道がないから削除してよいのか、別なところで大事に思っているところがあるかもしれない。今回の提案でモデルをうまく説明したり、評価したりするためのモデルはこうあるべきというところはわかったので、昨年度からの議論としては大きな流れでよいのではないか。
→大切にしたい点として、どのような情報提供ができるのか、震災後2年半たって、具体的な手法、アプローチの方法について、最終的にまとめたい。
- ・ヒアリングのイメージは、10件程度、例えば電気事業者の広報、メディア系の有識者に対して、こういう結果があって今後どう広報をやっていくべきなのかというようなことを聞いたらいよいのではないか。
- ・事前調査で論文を書いた人も対象になるかもしれない。
- ・広報という観点であればそれでよいかもしれない。ただ、第一回調査の際にモデルを考えるとときにヒアリングを行った方も対象としてはあってもよいのではないか。
→自治体、評論家、慎重派の方、オピニオンリーダー等いろいろな方を網羅して意見を聞いたと記憶している。心理系の方もいたと思う。

- 15歳くらいの子が質問についていけないのが心配ではある。必要、そう思うという言葉の違いも考えていないかもしれない。
 - 順序も見て、素直に入っていくかどうか、文言チェックで15歳の人ができるかどうかを確認してはどうか。
 - 事務局として継続性で必要な質問項目はどれになるのか。
- 賛成／反対というような、パーセンテージの変化は取りやすいがモデル関係のところは分析が難しく、学会に投稿した報告では使用していない。

次に、資料6-1を基に質問の削除及び変更について、討議を行った。内容は以下の通り。

- 問1から問3まで、削除するという案で、経年変化・定点測定としてこれでよいか。当初の目的は、回答者の知識がどれくらいか測定する意図があったと思うが。
 - ウォーミングアップという意味もあった。一見無意味でもそこに意味があった。
 - イメージ問題が問1であればウォーミングアップはできる。むしろ、可採年数で、かつ解説までついているのはウォーミングアップとして難しい。また、「可採年数はあと40年であるということを知っていますか」と聞けば、知らなくてもそこで勉強効果があり、よいのだが、今の質問方法では結局何年なのかがわからずアンケートとしては不誠実になる。テストで順位をつけるのならこういうテスト問題になるが、テストではないので。
 - せっかく時間をかけて訪問形式で行うのだからと、今のような勉強効果を狙うというものを入れていた。読んでいて、そうか、と思うような切り口も大切にしたい。しかし、どちらにも使えないというのであれば、削除するのかもしれない。
 - 10年後に可採年数が変わったりするのか。
 - 新しい鉱山が見つかったり採掘できるようになったりで可採年数は変わらない。
- シェールガスが出てきて石油の可採年数は100年とも言われている。知っている人はいないと思うが、質問を残すとすれば、40年は回答としては正しくない。
- 議論の流れでは削除するということがよいのではないか
 - 問6の原子力やエネルギーの分野でご存知のものはどれですかという選択肢を手厚くして、たとえば、現在の可採年数は何年です、と記載することで勉強効果狙うこともよいと思う。今は体言止めになっており、これも放置形式なので「地球温暖化の原因」について知っているかと書かれても、わからない。そのあとの積極的な自主学習を促すならよいが親切な方法ではない。ただ、どこまで書きこむべきかというのが難しい。
 - 事実を選択肢として書いて、知っているかと質問した時に、その選択肢が共有化された事実といってよいものなのか、わからないところがある。プルサーマルや核燃料サイクルの仕組みを解説するととんでもないことになってくる。
 - 専門家がプルサーマルや核燃料サイクルの仕組みを知っていますかと言われたら、わからないと答えるかもしれない。

- ・専門家になるほど答えられないこともある。
- ・中学生くらいが○を付けることも考慮すべき。
- ・回答する人の意識やスタンスの違いがあるので、できるだけ答えに近いものを書いてあげて、この範囲を知っていますかと聞くのがよい。
- ・あまり書き込みすぎると難しくなってしまうので、1行で多いくらいのイメージで絞らないとだめかもしれない。
- ・知識問題を拡充するのであれば、3段階で聞く方法もある。
- 予算的に難しい。
- ・事実としては、学校で教える内容を書かないとだめなのでは。最新の事実には追いついてないが、ひとまずは学校教育がベースにならないと。
- ・毎年そのチェックを行う必要がある。
- ・回答者の年代によっても違う。
- ・最新の知見で石油の可採年数は100年であると書いたら驚きはある。
- ・回答者が安定的な知識を手に入れている人なのか、そうでないのかを知りたいという意図があったのではないか。
- ・選択肢が定性的であれば簡単だが定量的だと難しいため、できれば定性的にしておいたほうがよい。
- ・中学生だとわかる子とわからない子がいると思う。
- ・生徒も混ざるアンケートで中学生が知らないことを聞いても仕方がないので、学校教育の教えている範囲にしてはどうか。富山先生に見ていただいて、せめて中学生が習ったくらいの話でにしては。
- ・知識問題を、単に、回答者がこのレベルのことは知っている、というチェックのために使うのならそれでよいが、知識のありなしでどのような態度が変わるのかとなると、必ずしも優しい問題だけではだめで、ある程度難しいものまで入れてその分布が出てくるようにしないと分析としては意味がない。
- ・中学生がわからない選択肢を入れてよい、知らなくても義務教育上仕方がないということでもよいか。
- ・時間に余裕があるのなら中学生対象でサンプルをとってもよい。
- 調査票確定まで1週間で時間がない。
- ・調査開始に間に合わないとしても、10代の感触がわかるので、次の委員会開催前にやっていただいて議論に役立ててはどうか。
- ・本来は調査票作成後、専門家にやってもらい文章や事実のチェックを行う。今まではチェックのいらない体言止めの言葉になっていた。
- 問6の選択肢を文章化し、問1から問3はできるだけ入れ込む形で努力をする。
- ・問7-2放射線利用は、ご存知かどうかはなく、関心があるかを聞いていた。
- 関心より先に、利用を知っているのかが前提となるため、ご存知ですかと変更した。

- 質問の順序変更は問題ないのか。
- 情報源は信頼の一連となっていて、人への信頼、国への信頼、情報源への信頼という順序で素直ではある。
- 行ったり来たりするようにして、バイアスがかかりにくくなるようにしたという意図があったのではないか。
- 順序を変える影響は多少あるが、結局どちらを優先するか。すっきりとさせれば答える側の気持ちとして安定して答えることができる。行き来して突然違う質問になると、回答者が複雑で面倒だと感じる影響のほうが、原子力というテーマだと大きすぎるかもしれない。この順番で、次はこういうふうに聞いているんだなとわかるほうが結果として本人が思うことを素直に得られるし、テクニカルに複雑にするよりは回答しやすい。
- 問8-2と8-3を削除して問題はないか。
- 問8-2と8-3を削除し、情報源に対する信頼の質問を追加したということによいか。
- 以前は情報入手経路と情報源の信頼どちらも聞いていたのではないか。
→ プレ調査ではたくさん質問があり、その結果を踏まえてネットでアンケート調査を行った。どの質問に興味を持っているかという意見を参考にして質問数を絞った。第一回調査時には情報源の信頼について聞いていない。
- 情報源の話と、情報源の信頼性を結び付けてほしいというのはある。
- 広報手法を知りたい意図もあり、信頼よりも、実際に見ているものは何かという情報源を優先した記憶がある。見ているということは信頼しているということだ、という。
- 重要なのは信頼で、その情報源を信頼しているならその情報源を見ているものと言い換えることもできるのなら変更してよいのではないか。
→ 報源については、8-1を残しているので継続してみるができる。
- 有益性と事故トラブルに関する情報で分けているのもわからない。
- 分析で情報源よりもその信頼性を聞いたほうがモデル解析でやりやすい。
- オーソドックスな聞き方なので、この調査結果のほうが、広報を行う人にはわかりやすい。どのメディアを信頼し、どういう人の発言を信頼してる、と。有益性と事故トラブルの情報源はメディアと人が混ざっていて分析しにくいし、見る人もわかりにくい。
- 調査結果に基づいたインタビューに活用しやすいテーマでもある。
- インタビューに活用しやすいのであればよいのではないか。
- 問9-1の理解に役立つところを削除するのは問題ないか。
→ 手元にないものについて理解に役立つかどうかという評価はできないため削除している。たとえばパンフレットが理解に役立つという回答はずっと1ヶ台だったが、だからといってパンフレットを作成しても意味がないという結果にはならず、評価ができない。参加してみたいものについては、活用できるため残している。
- 問8-1 普段の情報源のあとに追加した情報源の信頼のところで見ればよい。信頼していれば役に立っていると。理解に役立つ情報源の選択肢が情報源の信頼の選択肢

に入れこめるか精査すればよい。削除する問9-2も同様。

- 問10は必要であるという5段階評価から、そう思うという評価に変更しているが、前よりは見やすくなった。
- aからoで追加や削除した箇所はどこか。
 - e、fの平和利用は、原子力発電は平和利用ではないという議論になりそうだということ、核爆弾を使わないという平和利用と混同されそうだという理由で削除している。資料6-2、218ページの網掛け部分は追加している。7の利用、8の廃止についてはベネフィット認知、リスク認知、信頼という要素を聞いて、最終的な原子力発電を受け入れるかどうかを聞いていないので、利用と廃止を対立させて追加している。5と6は削除した問24事故に関連した心配、16から18は削除した問21-2エネルギー利用の選択理由から、ベネフィット認知の項目として移動させた。
 - fの平和利用はなぜいれていたのか。
 - 最初のモデルに「原子力の平和利用への信頼」という要素があったが、昨年度までの分析で専門家・政府管理・原子力技術への信頼等の要素が分かれなかった。
 - 必要と有用の違いはどうなのか。
 - ベネフィット認知を細かく言うと、有用性と必要性は別になる。必要悪でも必要なものは必要だが有益だとは思わない等、いろいろあるので、聞いている。必ずしも一つの枠組みかという、やってみないとわからないところもあるが、大概、相関が高い。
 - 必要はわかるが、有用は中学生がわからないかもしれない。役に立つ等、言い換えることはできないのか。
 - 経年変化がすでに分かっている問いについては変更や削除してよいと思うが、今回は大きな改訂になるので、変更の経緯やどの質問で読み取れる等を細かく残すべき。
 - 問11-1は質問の表現が変わっている。
 - 問13-1と問15にあった国や自治体に対する信頼の質問がわかりにくい「原子力に関してあなたは国や自治体を信頼できると思いますか」と変更した。それに合わせて専門家への質問も変更している。
 - 問14質問文の「安心して任せる」という表現は、推進側なのではという議論もあったので修正しても経年変化に影響がでないのであれば修正文のほうがわかりやすい。
 - 問16原子力技術に対する信頼は削除してよいか。
 - 経年変化としては、発電に対する信頼が事故の後下がった以外、変化はない。発電に対する信頼も戻っていない。
 - 発電に関する信頼は戻るまで取り続けたほうがよいのか。
 - 取り続ける理由がはっきりあれば残すべきだが、他の質問で読み取れるかもしれない。
 - 技術は信頼の対象ではないため、残すのであれば技術レベルを信頼していますか、技術が十分高いと思いますか、等、もう少し噛み砕いたほうがよい。
 - 削除する方向が強いのではないか。

- 問20のニュースは昨年度までも活用しにくいという議論があったため、削除してよいのではないかと。
- 問23と問24は事故の直後だから入れたので、いつ削除するかを議論すればよい。
- 問24の選択肢は、コストに関するものはベネフィット認知の項目として問10の修正案に入れ込んでいる。放射性物質による影響は問17放射線に対する不安にも入れ込める。
- 問23、問24の選択肢で大事そうなものを他の質問で見られるようにしておけばどうか。
- 継続して取れば考え方が事故前に戻るものがあるかもしれない。居住地の安全性はほぼ福島の人に限定されるのではないかと。事故の収束や風評被害はそれ以外の地域でもあるかもしれない。
- あくまで参考情報になるので単純な比較はできないが、関連する項目として、昨年度はこういうものやっていると近いのページに置けばよいのではないかと。

続いて、質問の順序及び選択肢について、資料6-2を基に討議を行った。内容は以下の通り。

- 215ページ、原子力のイメージと放射線のイメージで選択肢の順序が裏返しにしてある。左上から見ていく傾向があるため、左上のつけやすい場所と右下のつけにくい場所で結果が変わるのかどうか、年度によって順番を変えることはある。1明るい・13暗い、2悪い・14よい、とネガティブからポジティブ、ポジティブからネガティブに変えているのはよいのだが、設問ごとに順序が裏返しであるのは答えにくいのではないかと。
- 知能テストをやっているような感じもする。
- 流さないで真面目に回答してもらうためにというのは一理ある
- 完全に経年をとるのなら、順番も変更しないほうがよい。
- 順序を変更するメリットとデメリットが同じなら、そのままのほうが良いのではないかと。
- 細かく15歳から見れば別だが、全体的にメリットもデメリットも相殺できる量にはなっているので、順序を変える案でも大丈夫ではないかと。
- より忠実な経年変化が見えるほうがよいので、そのままにしてはどうか。
- 216ページ下の問は知識を問う選択肢を1行程度で書くが、項目に不足はないかと。
- 現状の案では、一通り入っている。日本、エネルギー、環境問題、原子力発電、もう少し高度な原子力技術、原爆、放射線、影響の話という風に並んでいる。
- 各国のエネルギー事情というのはどのような内容になるのか。
- 文章化すると、どの国がどこからエネルギーを得ている、等が含まれる。日本はどこから輸入までは求めておらず、そういう意味では高度な知識を要求している。
- これに丸を付ける人がいないのではないかと。
- 何か国のことなのか、だが、世界のエネルギー事情となるとわからなくなってしまう。
- 選択肢を1つに限定せず、いくつかの国の特徴を示してはどうか。

- 原子力であれば、原子力の発電量が多い順に1位は何というのもよいのではないか。
 - フランスが8割とかでもよいのではないか。
 - 一行で書くのは無理かもしれない。
 - 高レベル放射性廃棄物とその処分方法というのも難しい。
 - 価値観を入れてはだめなので、こういう事実を知っていますか、と聞く形にするべき。
 - 事務局がいろいろ教育事業等をやってきた経験で、知っていてほしいところだとか、講演会で入れる項目を並べるだけでもよいかもしれない。
- 選択肢1つにつき1行以内のものを事務局が作成し、後日委員の先生方に目を通してもらうこととする。
- 218ページ選択肢の「有用である」という文言は役に立つ等で変更してよいか。
 - 役に立つというと、本当は、〇〇に役に立つとなってしまう。入れなくても日本語は補って通じてしまう言葉ではあるのでイメージでつける場合にはよいが、有用であるというと、実は、前に何とかにと入れなくてもよいが、役に立つというと。
 - 有用のほうが大きい枠で、役に立つというと個人にと取れる気もする。個人に役に立つという考え方をする人はいないのか。
 - あまり考えなければ、役に立つという風に入れ換えても結果は出てくるのでは。
 - 選択肢13で原子力の利用は暮らしの中で役に立つ、と書いてあるが、有用というのは役に立つという意味では使っていない。有益というか、存在が重要だ、という。
 - 本来調査票をあいまいにしてはいけない。暮らしの中でという曖昧になる。
 - 他がないんだったらここも暮らしの中でというのを切りたくなる。
 - 原子力と原子力発電の利用が違うというのを一般の人はわからないかもしれない。
 - 市民の方と話をして、原子力の利用はそんなことも含めて話しているのね、という意見があった。
 - 13を3に持つてくると混乱させるけど意識はわかる。原子力発電は必要、有益、原子力の利用は有益である。
 - 原子力は、暮らしの中でと書いてあるから役に立つ、でよいのではないか。
 - 有益の理由である程度、他の選択肢にコスト的などところを入れている。
 - 選択肢17の国産のエネルギーが重要というのはいかがか。
- 資料6-1、212ページのエネルギー源の選択理由を削除して、その選択肢から持ってきているので重要を使っている。
- 210ページ問18はそのままだが、拡充するのか。
- リスク認知で高レベルのことを扱っているが、今後のためにもう少し手厚く聞いたほうがよいのではないか、具体的に、何に対してリスクを感じているのか。どこに来るのか、処分が決まるのか、そういったところまで聞かなくてよいのか気になり、拡充を検討、としている。
- 廃棄物の処分についてどう思うか他の質問で聞いていなかったか。

- 特に高レベル廃棄物処分についてはない。
- 予算的に問題がなければ追加すればよいのではないか。
 - 「放射線に対し感じる不安」の選択肢は自然放射線を分けている。自然由来か人工由来か、事故か、医療かは分けて考えていそう。内部被ばくか外部被ばくかを聞くのもよい。
 - 前の問「原子力発電について不安と感ずること」と、感ずる不安は統一したほうがよい。
 - 原子力発電に合わせたほうがわかりやすい。
 - 不安の内容に資料6-1問24で削除した食品影響等が入ればよいかもしれない。
 - 原子力発電への不安に福島事故収束を個別に入れてもよいかもしれない。
 - 削除したものが足りているか見ればよいが、インターネットの内訳を聞くかどうか含めて議論が必要。
- 昨年度まではインターネットを選んだ方に聞いて、2チャンネル等あったが、数が少なく評価ができなかった。
- インターネットを分けて選択肢に書くとしたら、従来型のHPとSNSくらいに分けることはできるが、その分類が国民的理解なのかが難しい。
 - ある年代以上はPCから得る情報がすべてインターネットとなるのではないか。
- あまり細かく分けると、テレビも報道番組か、雑誌も週刊誌か等選択肢が増える。
- どういう媒体から情報を得て、誰から情報の発信があるのかと聞いておけば組み合わせる程度わかるのではないか。
 - どのような媒体を見ているのかという議論があった。
- 事故後、それが知りたいと思ひ加えたが、検索エンジンとニュースサイトが多いことしかわからなかった。
- リサーチ会社がインターネット調査で、何でみているかと聞くのであればできるが、もともと媒体がいくつかある中でインターネットを選んだ人となると少人数になってしまう。このアンケートの中で聞ける範囲を超えてしまっているのでは、ここまで聞く調査ではないというのが前回まででわかったのではないか。
 - 学校の授業は入れないでもよいか。
 - 学校に行っていない人が回答できないという問題はある。
- 調査対象に10代が含まれており、放射線教育導入があるので長期的に見てみたい。
- 入れるならば選択肢6と7の間がよい。
 - 大学、塾は学校に含まれると認識してよいか。
 - 情報源として誰の発言を信頼するかは、削除予定の資料6-1問12期待する人、問8-2有益性の情報、問8-3事故やトラブルの情報にある選択肢をまとめて入れているが、不足はないか。
 - 人と組織を分けて記載しなくてもよいのか。
 - 政府関係者といったときに人を思ひ浮かべるか組織を思ひ浮かべるか異なるので、分

けるとかえって難しくなる。

- 223ページ下の問は昨年度の問19(211ページ)に、直観的の対になる論理的を追加したり、社会システム観として選択肢の13から15を追加したりしている。わかりにくい言葉だが、指標化してそれなりに成立したので入っている。
 - ここは言葉がわかるかという問題になる。
 - 順序が最後になっているが、先に聞いてほしいという気もする。
 - もともと、どう使うかがわからずに分析に使われていない問なので、削除するのであれば削除してもよいのではないか。属性やキャラクターの癖でどう差が出てくるのか分析するための指標、調査的な指標になるのでそのような目的がないなら削除するのも一つではないか。
 - 全体の質問数を調整して大丈夫であれば残して、ぎりぎりであれば優先的に削除すればよいのではないか。残すのであれば中学生の切り口で見てもらうのはどうか。
 - あてはまるものはないはあってもよいが、その他は必要ないのではないか。
 - 調査票のタイトルが「日本のエネルギー事情についてお伺いします」となっているが中身が原子力について聞いているので変更してはどうか。
 - タイトルは調査会社が決めるのか。
- 乗合調査なので、車の会社であれば車の何とかについて、というようになる。変更できるはずなので確認する。

5. 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」集計方法、分析方法、アウトプットレポートイメージについて

分析方法やアウトプットレポートについては、調査票が確定しない状況でお示しできないため、これから質問票が確定してから作成したいと考えている。クロス集計については基礎的な信頼・原子力利用に関する考えかた等について集計したい。また、レポートは、過去の調査のデータがわかるように作成したい。

6. 今後のスケジュールについて

21日に最終版を調査会社に提出するので、今週中に修正案をお示しし、おそらく調査会社の表現統一もあるので同時並行で確認してもらいたい。

今後の委員会の予定は、第2回WG委員会を1/17(金)18時、第3回WG委員会は2/3(月)18時とする。

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第一回WG委員会 議事次第

と き： 平成 25 年 11 月 13 日 (水)
17:30～20:00
ところ： 東京大学第二本部棟会議室

- 17:30 開会
- 17:30～17:35 財団挨拶 (事務局)
- 17:35～17:45 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」の概要及び事前調査報告 (事務局)
- 17:45～18:15 審議 (委員)
- 18:15～18:40 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」質問改訂の概要 (事務局)
- 18:40～19:45 審議 (委員)
- 19:45～19:50 集計方法、分析方法、アウトプットレポートイメージについて (事務局)
- 19:50～20:00 審議 (委員)
- 20:00 閉会

配布資料

- ①議事次第
- ②出席者名簿
- ③「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」概要
- ④「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要
- ⑤「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」修正前質問一覧
- ⑥「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」質問修正 (案)

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第一回WG委員会
出席者名簿

【委員長】

飯本 武志 東京大学環境安全本部 主幹 准教授

【委員】(50音順・敬称略)

木村 浩 特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ 研究広報調査部 研究統括

齋藤 朗 株式会社社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部長

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

【事務局】

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・理事

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

平成 25 年度原子力利用に関する世論調査 概要

(1) 目的

原子力技術は、産業や日常生活等さまざまな分野で利用されており、我々は、日々その恩恵を受けて生活を営んでいる。しかしながら、原子力の分野においては、事故や災害等トピックスとなる出来事があるごとに、原子力に対する世論が大きく変動する傾向にある。

そのため、本調査の目的は全国規模の世論調査を経年的、定点的に実施し、原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握することにより、様々なステークホルダーが、原子力に関する知識の普及活動のあり方等を検討するために、情報の受け手が求めている情報を確実に伝える手法等に関する知見を得ることである。

また、調査結果を統計的に分析・考察した知見を、様々なステークホルダーが活用できる情報発信方法についても検討する。

(2) 調査内容

平成 24 年度調査においては、重点的な項目として調査モデルの「原子力に対する態度」と「原子力に対する信頼」、「ベネフィット認知」、「リスク認知」についての相関分析を行ったが、調査モデルが非常に複雑であることや、統計学的に分析するための質問が不足している等、質問項目や調査モデルの精査が課題となった。様々なステークホルダーに本調査を活用していただくためには、適切な調査モデルに沿った質問項目が必要であることから、平成 25 年度調査においては、本調査の主目的である経年的・定点的変化の観察を考慮しつつ、質問項目の精査と統計学的に分析できる項目の整理に並行して調査モデルの修正を行うことにより、様々なステークホルダーが原子力に関する知識の普及活動を行う際に活用できる情報発信方法について検討する。

(1) 質問票の設計

ステークホルダーが必要とする情報を精査し、求められている情報を収集・分析するための設問を追加する。また、事故の前後で回答の傾向に変化がない項目等、定点観察が不要であると考えられる項目については、他調査結果との比較分析を行った上で削除を検討する。

なお、24 年度調査の基本的な質問項目は、以下の通り 30 問程度であるが、(1) 質問票の設計の結果をもとに、精査する。

【質問項目 (案)】

- ・ 属性
- ・ 原子力に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・ 放射線に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・ エネルギーに関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・ 環境問題に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・ 科学技術に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・ エネルギー・原子力の情報源（媒体）とその信頼性

- ・原子力に携わる人（専門家、電気事業者、自治体、公益法人、NPO等）への期待
- ・原子力に携わる専門家や原子力関係者への信頼
- ・国や自治体による原子力の安全管理への信頼
- ・原子力、放射線、エネルギーについて受け手が欲する情報
- ・原子力の平和利用に対する態度
- ・原子力のベネフィット認知
- ・原子力のリスク認知
- ・原子力・エネルギーに関するトピックス認知、評価
- ・福島第一原子力発電所事故に対する意識、知識、態度等々

(2) サンプルングと調査実施

(1)で設計した質問票を使用し、「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」を実施する。実施にあたっては、全国から代表的な対象地域を 200 ヶ所選定した上で、住宅地図データベースより世帯を抽出し個人を割当て、専門調査員による戸別訪問留置き調査を行う。なお、回収サンプル数は 1200 人とし、実施期間は平成 25 年 11 月 29 日～12 月 11 日を予定する。

世論調査の回答は専用端末にデータとして入力する。ただし、自由回答については、テキスト形式のデータとして入力する。

(3) 調査結果の分析

① データの分析

調査結果の一次集計として単純集計と、属性や関連する質問項目間のクロス集計を行い経年変化の分析を行う。

また、ステークホルダーが原子力に関する知識の普及活動を行う際に活用できる情報発信方法について、重点的に分析を行うために、有識者および原子力関係者等 10 名程度にインタビューを行い、今後、どのような広聴・広報・コミュニケーションを行うべきかと考えているかを分析する。

なお、インタビュー対象者の選定については、調査結果を基に検討し、決定する。

(4) 考察

今年度実施した世論調査の集計結果及び分析結果における属性別の傾向や課題を明らかにするとともに、情報の受け手が求めている情報を確実に伝える手法等を検討し、原子力利用に関する知識の普及活動のあり方について考察する。また、本調査の結果を、さまざまなステークホルダーに活用していただくための情報発信方法についても検討する。

(5) WG 委員会の設置

以上の調査内容の検討にあたっては、原子力に係わる広報やリスク・コミュニケーション

の専門家・教育関係者で構成する WG 委員会を設置し、世論調査の計画から実施、分析結果の検討、適切な広報のあり方の検討にいたるまで、内容を吟味する。

平成 25 年度原子力利用に関する世論調査 事前調査概要

1. 我が国における原子力の社会的受容性構造に関する近年の研究

- 調査対象：2000 年代の論文
 - 篠田佳彦,2007,『原子力と社会の相互作用に関する考察』,日本原子力学会和文論文誌,6(2),p97-112.
 - 土屋智子,2003,『原子力技術と社会的受容性』,IEEEJ Journal,Vol.123,No.2.
 - 加藤尊秋ほか,2007,『電源地域における経済的・財政的利点の「補償」としての認知』,日本原子力学会和文論文誌,6(4),p404~420.
 - 岡部康成ほか,2013,『原子力発電のリスク認知や事故対応の評価、社会的受容における決定要因に関する東日本大震災発生後の専門家と大学生の相違点』,生活科学研究,35,73-83.
 - 篠崎香織ほか,2005,『意思決定における社会システム観の影響』,日本リスク研究学会誌,15(2),pp55-62.
 - (後は木村の研究)
- 基本的には、ベネフィット認知、リスク認知、信頼が大きく影響を持っている。
 - この知見に関しては、それ以前の知見と大きく変わることはない。
 - 社会システム観に関する知見は興味深い。(篠崎ほか)
 - ◇ 社会システム観とは、個人の価値観が個人志向なのか、システム志向なのか、ということを目指す。たとえば、立地地域において、定住性（昔から立地地域に住んでいる人）：安全性への信頼、システム志向、個人主義志向が利用態度を規定している。非定住性（最近立地地域に来た人）：安全性への信頼、リスク認知が利用態度を規定している（社会システム観は関与していない）。

2. 調査質問項目について

- 上記 3 項目（ベネフィット認知、リスク認知、信頼）を中心として、質問項目を整理した結果、ベネフィット認知、リスク認知に関する項目が不十分であると判断。
 - これらの質問項目を補填する。（過去の調査票等も参考にしながら）
- 社会システム観の項目も追加。
- 広報事業の効果を測定する項目のうち、広報コンテンツに関する評価項目は削除
 - 広報コンテンツがその場にはない状態で、問いに答えることは意味が薄い。
 - 広報コンテンツに関しては、調査結果を関係各位にお知らせしながら、広報のあり方についてのインタビューをすることで変える。

テーマ:「日本のエネルギー事情」についてお伺いします**【すべての方に】**

問1 あなたは石油の可採年数※1はどのくらいだと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 約20年 2 約40年 3 約60年 4 約80年

＜※1可採年数＞石炭、石油、天然ガス、ウランなどの資源は、量に限りがあり、現在存在が確認され、生産され得る資源(確認可採埋蔵量)を、今までのように使い続けたら、あと何年くらい使い続けることができるかを示しています。

【すべての方に】

問2 あなたは二酸化炭素などのガスの増加によって地球温暖化が起きると言われていることをご存知ですか。(○は1つだけ)

- 1 詳しい内容まで知っている 2 ある程度の内容は知っている 3 知らない

【すべての方に】

問3 あなたは東日本大震災以前に日本の発電電力量の約何割を原子力が担っていたと思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 約1割 2 約3割 3 約5割 4 約7割

【すべての方に】

問4 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 明るい	13 暗い
2 悪い	14 よい
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみやすい	16 親しみにくい
5 複雑	17 単純
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 不安	20 安心
9 必要	21 不必要
10 役に立たない	22 役に立つ
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気になる	24 気にならない
	25 その他(具体的に:)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問5 あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 暗い	13 明るい
2 よい	14 悪い
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみにくい	16 親しみやすい
5 単純	17 複雑
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 安心	20 不安
9 不必要	21 必要
10 役に立つ	22 役に立たない
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気にならない	24 気になる
	25 その他(具体的に:)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問6 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--|
| 1 自然界にある放射線について | 5 原子力発電と原子爆弾の違い |
| 2 放射線と放射能の違い | 6 プルサーマル ^{*2} や核燃料サイクル ^{*3} のしくみ |
| 3 様々な分野での放射線の利用 | 7 どれも知らない |
| 4 放射線の量と人体への影響の関係 | |

<※2プルサーマル> 原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。

<※3核燃料サイクル> 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。
このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

【すべての方に】

問7-1 原子力やエネルギーの分野において、あなたに関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 13 放射線の医療利用 |
| 2 地球温暖化 | 14 放射線の農業利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 15 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 16 高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ |
| 5 太陽光発電の開発状況 | 17 「もんじゅ」の安全性 |
| 6 風力発電の開発状況 | 18 核燃料の製造加工 |
| 7 バイオマス発電の開発状況 | 19 省エネルギー |
| 8 核分裂のしくみ | 20 放射性廃棄物の処分 |
| 9 原子力発電の安全性 | 21 使用済燃料の貯蔵 |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 22 原子力施設のリスク(事故・トラブルなど) |
| 11 放射線による人体の影響 | 23 その他(具体的に:) |
| 12 放射線の工業利用 | 24 特になし/わからない |

【すべての方に】

問7-2 放射線利用の分野において、あなたに関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 プラスチックの強化 | 6 CT スキャン |
| 2 花や植物の品種改良 | 7 非破壊検査 |
| 3 ガン治療 | 8 レントゲン |
| 4 食品への照射 | 9 医療器具などの滅菌 |
| 5 年代測定 | 10 その他(具体的に:) |
| | 11 特になし/わからない |

【すべての方に】

問8-1 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 インターネット	6 雑誌
2 ラジオ	7 本・パンフレット
3 博物館・展示館・PR施設	8 その他(具体的に:)
4 新聞	9 あてはまるものはない
5 テレビ	

【すべての方に】

問8-2 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

1 政府関係者
2 専門家(大学教員・研究者)
3 評論家(キャスターなども含む)
4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
5 自治体職員
6 小・中・高等学校の教員
7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
8 新聞・雑誌などの記者
9 オピニオンリーダー(身近な知識人)
10 政治家
11 知人や友人
12 家族や親戚
13 その他(具体的に:)
14 あてはまるものはない/この1年間に有益性に関する情報は得ていない

【すべての方に】

問8-3 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

※テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

- | |
|---|
| <p>1 政府関係者</p> <p>2 専門家(大学教員・研究者)</p> <p>3 評論家(キャスターなども含む)</p> <p>4 原子力関係者(電力会社・メーカー)</p> <p>5 自治体職員</p> <p>6 小・中・高等学校の教員</p> <p>7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー</p> <p>8 新聞・雑誌などの記者</p> <p>9 オピニオンリーダー(身近な知識人)</p> <p>10 政治家</p> <p>11 知人や友人</p> <p>12 家族や親戚</p> <p>13 その他(具体的に: _____)</p> <p>14 あてはまるものはない/この1年間に事故やトラブルなどに関する情報は得ていない</p> |
|---|

【すべての方に】

問9-1 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

【参加してみたいものはどれですか】

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)

【理解に役立つものはどれですか】

- 9 書籍
- 10 パンフレット
- 11 ビデオ・DVD
- 12 メール配信
- 13 インターネット
- 14 新聞広告・記事
- 15 テレビCM・番組
- 16 ラジオCM・番組
- 17 学校の授業
- 18 その他(具体的に: _____)
- 19 あてはまるものはない

【問9-1で「13 インターネット」とお答えの方に】

問9-2 原子力やエネルギーに関する理解に役立つ情報源として、具体的にどのサイトを閲覧していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 Yahoo!や Google 等の検索エンジン
- 2 インターネット上のニュースサイト
- 3 YouTube やニコニコ動画等の動画サイト
- 4 mixi や Facebook 等のソーシャルネットワーキングサービス
- 5 2ちゃんねる等の掲示板
- 6 ブログ
- 7 ツイッター
- 8 国のホームページ
- 9 自治体のホームページ
- 10 研究機関のホームページ
- 11 その他(具体的に: _____)
- 12 あてはまるものはない

【すべての方に】

問10 あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1ずつ)

		必要である	どちらかといえ 必要である	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば 必要でない	必要でない
a) 医療、工業、農業等における放射線利用	→	1	2	3	4	5
b) 原子力発電	→	1	2	3	4	5
c) 核燃料サイクル	→	1	2	3	4	5
d) プルサーマル	→	1	2	3	4	5
e) 世界唯一の被爆国として、原子力技術を平和利用に限ること、原子力利用の安全を確保することについて、もっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
f) 原子力の平和利用を広報する組織は、原子力の軍事利用の反対をもっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
g) できるだけたくさんの情報が国民に届くようにすること	→	1	2	3	4	5
h) わかりやすく情報を伝えること	→	1	2	3	4	5
i) 学校の授業で教えること	→	1	2	3	4	5
j) 些細なことでも隠さず伝えること	→	1	2	3	4	5
k) 都合の悪いことでも情報を外部(マスコミや国民など)に伝えること	→	1	2	3	4	5
l) 暮らしの中で活用する原子力の平和利用	→	1	2	3	4	5
m) 地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること	→	1	2	3	4	5
n) 化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5
o) エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5

【すべての方に】

問11-1 あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問11-2 あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 情報公開が十分されているから | |
| 2 情報公開が十分されていないから | |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから | |
| 4 大きな事故が起きたから | |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから | |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから | |
| 7 専門的な知識を持っている人だから | |
| 8 専門家にも間違いはあるから | |
| 9 信頼したいから | |
| 10 信頼できないから | |
| 11 その他(具体的に: _____) | |

【すべての方に】

問12 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。

次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 国 | |
| 2 自治体 | |
| 3 電力会社などの事業者 | |
| 4 大学や研究所 | |
| 5 財団法人、社団法人などの公益法人 | |
| 6 非営利組織(NPO) | |
| 7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関 | |
| 8 その他(具体的に: _____) | |
| 9 あてはまるものはない | |

【すべての方に】

問13-1 原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問13-2 あなたが、問13-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 情報公開が十分されているから |
| 2 情報公開が十分されていないから |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから |
| 4 大きな事故が起きたから |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 7 専門的な知識を持っている人だから |
| 8 専門家にも間違いはあるから |
| 9 信頼したいから |
| 10 信頼できないから |
| 11 国や公的機関は営利目的ではないから |
| 12 自分達の利益優先に感じるから |
| 13 その他(具体的に:) |

【すべての方に】

問14 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 事故原因の徹底究明 | 8 見学会や説明会の開催 |
| 2 情報公開 | 9 展示館の設置 |
| 3 事故に対する未然防止策 | 10 地域振興 |
| 4 職員の姿勢 | 11 放射線管理の徹底 |
| 5 実務の公開 | 12 検査体制の強化 |
| 6 安全管理規制の強化 | 13 その他(具体的に:) |
| 7 責任の所在の明確化 | 14 特になし/わからない |

【すべての方に】

問15 日本のエネルギー政策は国で決められています。あなたは、国のエネルギー政策の決め方について信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問16 日本の原子力技術のうち、あなたが信頼しているものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1 発電 | 6 非破壊検査 |
| 2 放射線の医療利用
(レントゲン、ガン治療、滅菌など) | 7 食品照射 |
| 3 放射線の農業利用
(品種改良、害虫駆除など) | 8 放射性廃棄物の処分 |
| 4 年代測定 | 9 核燃料サイクル技術 |
| 5 放射線の工業利用
(耐火ビニール、強化プラスチック) | 10 その他(具体的に:) |
| | 11 特になし/わからない |

【すべての方に】

問17 あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 大地からの放射線 | 5 医療で受ける放射線 |
| 2 宇宙からの放射線 | 6 原子力関連施設周辺の放射線 |
| 3 食物からの放射線 | 7 その他(具体的に:) |
| 4 空気中のラドンからの放射線 | 8 あてはまるものはない |
| | 9 不安はない |

【すべての方に】

問18 現在、高レベル放射性廃棄物の処分※4について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1 安心 | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば不安 |
| 2 どちらかといえば安心 | 5 不安 | |

＜※4放射性廃棄物の処分＞ 原子力発電所で使い終わった使用済み核燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。これまで発生した高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。

なお、使用済み核燃料の処分方法については、現在、リサイクルせずに直接地層に埋設処分する計画も含めて再検討されています。

【すべての方に】

問19 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 物事の判断は直感的・感覚的だ | 7 少くらしい生活が不便でも、省エネルギーは実践されるべき |
| 2 精神的な豊かさの方が物質的豊かさより大切 | 8 夏はクールビズに積極的に協力すべき |
| 3 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない | 9 科学技術が発展することで、人は豊かになる |
| 4 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい | 10 高度な技術も科学技術で完全に制御できる |
| 5 ゴミ処理や原子力発電などの問題は専門家による委員会決定されるべき | 11 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない |
| 6 住民にとって重要な選択をするときは住民投票で決定されるべき | 12 新しい技術導入に事故はつきもの |
| | 13 その他(具体的に:) |
| | 14 あてはまるものはない |

【すべての方に】

問20 次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 1 2011年10月 | 国際原子力機関(IAEA)専門家が福島県を訪れ除染試験を視察 |
| 2 2011年11月 | 経済産業省が核燃料サイクル関連施設などをストレスの対象に追加 |
| 3 2011年12月 | 野田政権が福島第一原発事故の収束(冷温停止状態の達成)を宣言 |
| 4 2012年1月 | 原子炉40年廃炉を盛り込んだ原子炉等規制法改正案が閣議決定 |
| 5 2012年2月 | アメリカの原子力規制委員会が34年ぶりの原発新設を許可 |
| 6 2012年2月 | 民間事故調査委員会が福島第一原発事故の調査・検証報告書を取りまとめ |
| 7 2012年4月 | 食品中の放射性物質に関する新基準値の適用が開始 |
| 8 2012年5月 | 泊原発(北海道)3号機が定期点検に入り、全国の原子力発電が全て停止 |
| 9 2012年5月 | 原子力委員会が使用済み核燃料処理方法を変更したコスト試算結果を公表 |
| 10 2012年7月 | 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の適用が開始 |
| 11 2012年7月 | 事故調査・検証委員が福島第一原発事故の最終報告書を野田総理に提出 |
| 12 2012年8月 | 大飯原発(福井県)3号機が営業運転を開始 |
| 13 2012年9月 | 原発に依存しない社会を目標とする「革新的エネルギー・環境戦略」を会議決定 |
| 14 2012年9月 | 環境省の外局として原子力規制委員会が発足 |
| 15 | どれも知らない |

【すべての方に】

問21-1 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|------------|---|
| 1 | 石炭火力発電 | |
| 2 | 石油火力発電 | |
| 3 | 天然ガス火力発電 | |
| 4 | 原子力発電 | |
| 5 | 水力発電 | |
| 6 | 地熱発電 | |
| 7 | 風力発電 | |
| 8 | 太陽光発電 | |
| 9 | 廃棄物発電 | |
| 10 | バイオマス発電 | |
| 11 | その他(具体的に: |) |
| 12 | あてはまるものはない | |

【すべての方に】

問21-2 あなたが問21-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 1 | エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要だから | |
| 2 | 日本にはエネルギー資源が少ないから | |
| 3 | 化石燃料には限りがあるから | |
| 4 | 二酸化炭素を排出せず、温暖化防止に役立つから | |
| 5 | 発電価格(コスト)の面で有利だから | |
| 6 | 自然エネルギーだから | |
| 7 | 国産のエネルギーを増やすことは重要だから | |
| 8 | 安全そうだから | |
| 9 | よく聞くから | |
| 10 | 自然の力を利用すべきだから | |
| 11 | 枯渇の心配がないから | |
| 12 | その他(具体的に: |) |
| 13 | あてはまるものはない | |

【すべての方に】

問22 日本の原子力利用は、原子力発電や放射線利用等、平和利用の分野に限っており、
これらを支えるために政策・規制・技術などのしくみ※5があります。
あなたはこのしくみについて信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | | 5 信頼できない |

<※5政策・規制・技術などのしくみ>
 原子力や放射線を安全に利用するしくみ
 テロに利用されないよう、核物質を安全に管理するしくみ
 原子力発電の燃料を兵器に転用させないしくみ
 人や環境への影響を防ぐしくみ

【すべての方に】

問23 あなたは、東京電力㈱福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を
現在積極的に得ようとしていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------------------|-------------|---------------|
| 1 積極的に得ようとしている | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば消極的 |
| 2 どちらかといえば積極的に
得ようとしている | | 5 消極的 |

【すべての方に】

問24 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関連して、現在心配していることは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|----|-------------------|
| 1 | 放射性物質による食品への影響 |
| 2 | 放射性物質による環境への影響 |
| 3 | 放射性物質による健康への影響 |
| 4 | 居住地の安全性 |
| 5 | 事故被災者の生活や仕事 |
| 6 | 事故の収束 |
| 7 | 風評被害 |
| 8 | 電気料金の値上げ |
| 9 | 電力不足 |
| 10 | 全国の原子力発電所の安全対策 |
| 11 | 日本経済への影響 |
| 12 | 日本の温暖化対策 |
| 13 | 日本のエネルギー政策 |
| 14 | 海外からの日本に対する評価 |
| 15 | その他(具体的に: _____) |
| 16 | 現在心配していることはない |

【すべての方に】

問25 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)

テーマ:「日本のエネルギー事情」についてお伺いします

【すべての方に】

問1—あなたは石油の可採年数※1はどのくらいだと思いますか。(○は1つだけ)

- 1—約20年 2—約40年 3—約60年 4—約80年

＜※1可採年数＞石炭、石油、天然ガス、ウランなどの資源は、量に限りがあり、現在存在が確認され、生産され得る資源(確認可採埋蔵量)を、今までのように使い続けたら、あと何年くらい使い続けることができるかを示しています。

【すべての方に】

問2—あなたは二酸化炭素などのガスの増加によって地球温暖化が起きると言われていることをご存知ですか。(○は1つだけ)

- 1—詳しい内容まで知っている 2—ある程度の内容は知っている 3—知らない

【すべての方に】

問3—あなたは東日本大震災以前に日本の発電電力量の約何割を原子力が担っていたと思いますか。

(○は1つだけ)

- 1—約1割 2—約3割 3—約5割 4—約7割

【すべての方に】

問4 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 明るい	13 暗い
2 悪い	14 よい
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみやすい	16 親しみにくい
5 複雑	17 単純
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 不安	20 安心
9 必要	21 不必要
10 役に立たない	22 役に立つ
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気になる	24 気にならない
	25 その他（具体的に：)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問5 あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 暗い	13 明るい
2 よい	14 悪い
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみにくい	16 親しみやすい
5 単純	17 複雑
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 安心	20 不安
9 不必要	21 必要
10 役に立つ	22 役に立たない
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気にならない	24 気になる
	25 その他（具体的に：)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問6 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--|
| 1 自然界にある放射線について | 5 原子力発電と原子爆弾の違い |
| 2 放射線と放射能の違い | 6 プルサーマル ^{*2} や核燃料サイクル ^{*3} のしくみ |
| 3 様々な分野での放射線の利用 | 7 どれも知らない |
| 4 放射線の量と人体への影響の関係 | |
- ★ここを手厚く。

<※2プルサーマル> 原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。

<※3核燃料サイクル> 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。
このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

【すべての方に】

問7-1 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 13 放射線の医療利用 |
| 2 地球温暖化 | 14 放射線の農業利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 15 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 16 高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ |
| 5 太陽光発電の開発状況 | 17 「もんじゅ」の安全性 |
| 6 風力発電の開発状況 | 18 核燃料の製造加工 |
| 7 バイオマス発電の開発状況 | 19 省エネルギー |
| 8 核分裂のしくみ | 20 放射性廃棄物の処分 |
| 9 原子力発電の安全性 | 21 使用済燃料の貯蔵 |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 22 原子力施設のリスク(事故・トラブルなど) |
| 11 放射線による人体の影響 | 23 その他(具体的に:) |
| 12 放射線の工業利用 | 24 特にない/わからない |

【すべての方に】

問7-2 放射線利用の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 プラスチックの強化 | 6 CT スキャン |
| 2 花や植物の品種改良 | 7 非破壊検査 |
| 3 ガン治療 | 8 レントゲン |
| 4 食品への照射 | 9 医療器具などの滅菌 |
| 5 年代測定 | 10 その他(具体的に:) |
| | 11 特にない/わからない |

【すべての方に】

問8－1 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 博物館・展示館・PR施設
3 インターネット	8 その他(具体的に:)
4 ラジオ	9 あてはまるものはない
5 雑誌	

【すべての方に】

問8－2 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

あなたは、原子力やエネルギーに関する情報源(メディア)として、何を信頼しますか？次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 博物館・展示館・PR施設
3 インターネット	8 その他(具体的に:)
4 ラジオ	9 あてはまるものはない
5 雑誌	

あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 政府関係者
2 専門家(大学教員・研究者)
3 評論家(キャスターなども含む)
4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
5 自治体職員
6 財団法人、社団法人などの公益法人
7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関
8 小・中・高等学校の教員
9 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
10 新聞・雑誌などの記者
11 政治家
12 非営利組織(NPO)
13 オピニオンリーダー(身近な知識人)
14 知人や友人
15 家族や親戚
16 その他(具体的に:)
17 あてはまるものはない/この1年間に有益性に関する情報は得ていない

【すべての方に】

問8-3 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

※テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかはいません。

- ~~1~~ 政府関係者
- ~~2~~ 専門家(大学教員・研究者)
- ~~3~~ 評論家(キャスターなども含む)
- ~~4~~ 原子力関係者(電力会社・メーカー)
- ~~5~~ 自治体職員
- ~~6~~ 小・中・高等学校の教員
- ~~7~~ テレビ・ラジオなどのアナウンサー
- ~~8~~ 新聞・雑誌などの記者
- ~~9~~ オピニオンリーダー(身近な知識人)
- ~~10~~ 政治家
- ~~11~~ 知人や友人
- ~~12~~ 家族や親戚
- ~~13~~ その他(具体的に: _____)
- ~~14~~ あてはまるものはない/この1年間に事故やトラブルなどに関する情報は得ていない

【すべての方に】

問9-1 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

【参加してみたいものはどれですか】

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)

【理解に役立つものはどれですか】

- 9 書籍
- 10 ~~パンフレット~~
- 11 ~~ビデオ・DVD~~
- 12 ~~メール配信~~
- 13 ~~インターネット~~
- 14 ~~新聞広告・記事~~
- 15 ~~テレビCM・番組~~
- 16 ~~ラジオCM・番組~~
- 17 ~~学校の授業~~
- 18 ~~その他(具体的に: _____)~~
- 19 ~~あてはまるものはない~~

【問9-1で「13 インターネット」とお答えの方に】

問9-2 原子力やエネルギーに関する理解に役立つ情報源として、具体的にどのサイトを閲覧していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 ~~Yahoo!やGoogle等の検索エンジン~~
- 2 ~~インターネット上のニュースサイト~~
- 3 ~~YouTubeやニコニコ動画等の動画サイト~~
- 4 ~~mixiやFacebook等のソーシャルネットワークサービス~~
- 5 ~~2ちゃんねる等の掲示板~~
- 6 ~~ブログ~~
- 7 ~~ツイッター~~
- 8 ~~国のホームページ~~
- 9 ~~自治体のホームページ~~
- 10 ~~研究機関のホームページ~~
- 11 ~~その他(具体的に: _____)~~
- 12 ~~あてはまるものはない~~

【すべての方に】

問10 あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

		必要である	どちらかといえ 必要である	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば 必要でない	必要でない
a) 医療、工業、農業等における放射線利用	→	1	2	3	4	5
b) 原子力発電	→	1	2	3	4	5
c) 核燃料サイクル	→	1	2	3	4	5
d) プルサーマル	→	1	2	3	4	5
e) 世界唯一の被爆国として、原子力技術を平和利用に限ること、原子力利用の安全を確保することについて、もっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
f) 原子力の平和利用を広報する組織は、原子力の軍事利用の反対をもっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
g) できるだけたくさんの情報が国民に届くようにすること	→	1	2	3	4	5
h) わかりやすく情報を伝えること	→	1	2	3	4	5
i) 学校の授業で教えること	→	1	2	3	4	5
j) 些細なことでも隠さず伝えること	→	1	2	3	4	5
k) 都合の悪いことでも情報を外部(マスコミや国民など)に伝えること	→	1	2	3	4	5
l) 暮らしの中で活用する原子力の平和利用	→	1	2	3	4	5
m) 地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること	→	1	2	3	4	5
n) 化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5
o) エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5

参考:2007年1月バージョン

問11 あなたは、原子力エネルギーに関する次の事柄について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

配布資料⑥－1

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
a) 医療、工業、農業等における放射線利用は必要である →	1	2	3	4	5	
b) 原子力発電は必要である →	1	2	3	4	5	
c) 核燃料サイクル※2は必要である →	1	2	3	4	5	
d) プルサーマル※3は必要である →	1	2	3	4	5	
e) 世界唯一の被爆国として、原子力技術を平和利用に限ること、原子力利用の安全を確保することについて、もっとアピールすべきである →	1	2	3	4	5	
f) 原子力の平和利用を広報する組織は、原子力の軍事利用の反対をもっと訴えていくべきである →	1	2	3	4	5	
g) できるだけたくさんの方が国民に届くようにすべきである →	1	2	3	4	5	
h) わかりやすく情報を伝えるべきである →	1	2	3	4	5	
i) 学校の授業で教えるべきである →	1	2	3	4	5	
j) 些細なことでも隠さず伝えるべきである →	1	2	3	4	5	
k) 都合の悪いことでも情報を外部(マスコミや国民など)に伝えるべきである →	1	2	3	4	5	
l) 原子力の平和利用は暮らしの中で役に立つ →	1	2	3	4	5	
m) 原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないの で、地球温暖化防止に有効である →	1	2	3	4	5	
n) 化石資源を使い切ることやオイルショックが 心配だから原子力は必要である →	1	2	3	4	5	
o) エネルギー資源をほとんど持たない日本に とって、原子力は必要不可欠なエネルギーである →	1	2	3	4	5	

<※2核燃料サイクルとは> 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは石油や石炭と違い、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

<※3プルサーマルとは> 使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び現在運転中のタイプの原子力

【すべての方に】

問11-1 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問11-2 あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | | |
|--|--|
| 1 専門的な知識を十分に持っているから | |
| 2 専門的な知識が不十分だから | |
| 3 偏った見方をしているから | |
| 4 公平な見方をしているから | |
| 5 正直に話しているから | |
| 6 正直には話していないから | |
| 7 私たちのことを配慮しているから | |
| 8 私たちのことには配慮していないから | |
| 9 私たちと考え方が似ているから | |
| 10 私たちとは考え方が違うから | |
| 11 熱意をもって、原子力に携わっているから | |
| 12 熱意が感じられないから | |
| 13 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから | |
| 14 大きな事故が起きたから | |
| 15 専門家にも間違いはあるから | |
| 16 管理体制や安全対策が十分だから | |
| 17 管理体制や安全対策が不十分だから | |
| 18 情報公開が十分されているから | |
| 19 情報公開が十分されていないから | |
| 20 信頼したいから | |
| 21 信頼できないからしたくないから | |
| 22 その他(具体的に: _____) | |

【すべての方に】

問12 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。

次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| <p>1—国</p> <p>2—自治体</p> <p>3—電力会社などの事業者</p> <p>4—大学や研究所</p> <p>5—財団法人、社団法人などの公益法人</p> <p>6—非営利組織(NPO)</p> <p>7—国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関</p> <p>8—その他(具体的に：_____)</p> <p>9—あてはまるものはない</p> |
|---|

【すべての方に】

問13-1 原子力に関して、の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問13-2 あなたが、問13-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1 専門的な知識を十分に持っているから |
| 2 専門的な知識が不十分だから |
| 3 偏った見方をしているから |
| 4 公平な見方をしているから |
| 5 正直に話しているから |
| 6 正直には話していないから |
| 7 私たちのことを配慮しているから |
| 8 私たちのことには配慮していないから |
| 9 私たちと考え方が似ているから |
| 10 私たちとは考え方が違うから |
| 11 熱意をもって、原子力に携わっているから |
| 12 熱意が感じられないから |
| 13 管理体制や安全対策が十分だから |
| 14 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 15 情報公開が十分されているから |
| 16 情報公開が十分されていないから |
| 17 信頼したいから |
| 18 信頼したくないから |
| 19 国や公的機関自治体は営利目的ではないから |
| 20 自分達の利益優先に感じるから |
| 21 その他(具体的に: _____) |

【すべての方に】

問14 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。原子力に関して、あなたは、国や自治体にどのような取り組みを望みますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--|
| 1 事故原因の徹底究明 | 8 施設見学会や説明会の開催 |
| 2 情報公開 | 9 説明会の開催 |
| 3 事故に対する未然防止策の策定 | 10 展示館の設置 |
| 4 職員の姿勢？ | 11 地域振興への協力？ |
| 5 実務の公開 | 12 放射線管理の徹底 |
| 6 安全管理規制の強化 | 13 検査体制の強化 |
| 7 責任の所在の明確化 | 14 その他（具体的に：) |
| | 15 特になし／わからない |

【すべての方に】

問15 日本のエネルギー政策は国で決められています。あなたは、国のエネルギー政策の決め方について信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------------------|------------------------|-----------------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | | 5 信頼できない |

【すべての方に】

問16 日本の原子力技術のうち、あなたが信頼しているものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 発電 | 6 非破壊検査 |
| 2 放射線の医療利用
(レントゲン、ガン治療、滅菌など) | 7 食品照射 |
| 3 放射線の農業利用
(品種改良、害虫駆除など) | 8 放射性廃棄物の処分 |
| 4 年代測定 | 9 核燃料サイクル技術 |
| 5 放射線の工業利用
(耐火ビニール、強化プラスチック) | 10 その他(具体的に: _____) |
| | 11 特になし/わからない |

【すべての方に】

問17 あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 大地からの放射線 | |
| 2 宇宙からの放射線 | ★ 不安についての質問になっていない。 |
| 3 食物からの放射線 | ★ 体への影響とか。。 |
| 4 空気中のラドンからの放射線 | ★ 規制基準、福島、食品、環境 |
| 5 医療で受ける放射線 | |
| 6 原子力関連施設周辺の放射線 | |
| 7 その他(具体的に: _____) | |
| 8 あてはまるものはない | |
| 9 不安はない | |

問 18 あなたが、原子力について不安とを感じる事柄についてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 機械の故障 | 5 テロ |
| 2 人的ミス | 6 放射線・放射能の漏えい |
| 3 行政機関の安全管理体制 | 7 その他(具体的に: _____) |
| 4 企業の安全管理体制 | 8 あてはまるものはない |
- ★不安についての質問を。

【すべての方に】

問18 現在、高レベル放射性廃棄物の処分※4について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1 安心 | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば不安 |
| 2 どちらかといえば安心 | | 5 不安 |

★もう少し拡充するか。

＜※4放射性廃棄物の処分＞ 原子力発電所で使い終わった使用済み核燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。

これまで発生した高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。

なお、使用済み核燃料の処分方法については、現在、リサイクルせずに直接地層に埋設処分する計画も含めて再検討されています。

【すべての方に】

問19 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも) →★社会システム観では？

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 物事の判断は直感的・感覚的だ | 7 少くらしい生活が不便でも、省エネルギーは実践されるべき |
| 2 精神的な豊かさの方が物質的豊かさより大切 | 8 夏はクールビズに積極的に協力すべき |
| 3 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない | 9 科学技術が発展することで、人は豊かになる |
| 4 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい | 10 高度な技術も科学技術で完全に制御できる |
| 5 ゴミ処理や原子力発電などの問題は専門家による委員会決定されるべき | 11 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない |
| 6 住民にとって重要な選択をするときは住民投票で決定されるべき | 12 新しい技術導入に事故はつきもの |
| | 13 その他(具体的に:) |
| | 14 あてはまるものはない |

【すべての方に】

問20 次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 2011年10月 国際原子力機関(IAEA)専門家が福島県を訪れ除染試験を視察 |
| 2 2011年11月 経済産業省が核燃料サイクル関連施設などをストレスの対象に追加 |
| 3 2011年12月 野田政権が福島第一原発事故の収束(冷温停止状態の達成)を宣言 |
| 4 2012年1月 原子炉40年廃炉を盛り込んだ原子炉等規制法改正案が閣議決定 |
| 5 2012年2月 アメリカの原子力規制委員会が34年ぶりの原発新設を許可 |
| 6 2012年2月 民間事故調査委員会が福島第一原発事故の調査・検証報告書を取りまとめ |
| 7 2012年4月 食品中の放射性物質に関する新基準値の適用が開始 |
| 8 2012年5月 泊原発(北海道)3号機が定期点検に入り、全国の原子力発電が全て停止 |
| 9 2012年5月 原子力委員会が使用済み核燃料処理方法を変更したコスト試算結果を公表 |
| 10 2012年7月 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の適用が開始 |
| 11 2012年7月 事故調査・検証委員が福島第一原発事故の最終報告書を野田総理に提出 |
| 12 2012年8月 大飯原発(福井県)3号機が営業運転を開始 |
| 13 2012年9月 原発に依存しない社会を目標とする「革新的エネルギー・環境戦略」を会議決定 |
| 14 2012年9月 環境省の外局として原子力規制委員会が発足 |
| 15 どれも知らない |

【すべての方に】

問21-1 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|------------|---|
| 1 | 石炭火力発電 | |
| 2 | 石油火力発電 | |
| 3 | 天然ガス火力発電 | |
| 4 | 原子力発電 | |
| 5 | 水力発電 | |
| 6 | 地熱発電 | |
| 7 | 風力発電 | |
| 8 | 太陽光発電 | |
| 9 | 廃棄物発電 | |
| 10 | バイオマス発電 | |
| 11 | その他(具体的に: |) |
| 12 | あてはまるものはない | |

【すべての方に】

問21-2 あなたが問21-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 1 | エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要だから | |
| 2 | 日本にはエネルギー資源が少ないから | |
| 3 | 化石燃料には限りがあるから | |
| 4 | 二酸化炭素を排出せず、温暖化防止に役立つから | |
| 5 | 発電価格(コスト)の面で有利だから | |
| 6 | 自然エネルギーだから | |
| 7 | 国産のエネルギーを増やすことは重要だから | |
| 8 | 安全そうだから | |
| 9 | よく聞くから | |
| 10 | 自然の力を利用すべきだから | |
| 11 | 枯渇の心配がないから | |
| 12 | その他(具体的に: |) |
| 13 | あてはまるものはない | |
- ★ベネフィット認知の話に、付け加えるものは付け加える。

【すべての方に】

問22 日本の原子力利用は、原子力発電や放射線利用等、平和利用の分野に限っており、
これらを支えるために政策・規制・技術などのしくみ※5があります。
あなたはこのしくみについて信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

1 信頼できる	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば信頼できない
2 どちらかといえば信頼できる		5 信頼できない

＜※5政策・規制・技術などのしくみ＞

- 原子力や放射線を安全に利用するしくみ
- テロに利用されないよう、核物質を安全に管理するしくみ
- 原子力発電の燃料を兵器に転用させないしくみ
- 人や環境への影響を防ぐしくみ

【すべての方に】

問23 あなたは、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を
現在積極的に得ようとしていますか。(○は1つだけ)

1 積極的に得ようとしている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば消極的
2 どちらかといえば積極的に 得ようとしている		5 消極的

【すべての方に】

問24 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関連して、現在心配していることは何ですか。
 あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- ~~1~~ 放射性物質による食品への影響
- ~~2~~ 放射性物質による環境への影響
- ~~3~~ 放射性物質による健康への影響
- ~~4~~ 居住地の安全性
- ~~5~~ 事故被災者の生活や仕事
- ~~6~~ 事故の収束
- ~~7~~ 風評被害
- ~~8~~ 電気料金の値上げ
- ~~9~~ 電力不足
- ~~10~~ 全国の原子力発電所の安全対策
- ~~11~~ 日本経済への影響
- ~~12~~ 日本の温暖化対策
- ~~13~~ 日本のエネルギー政策
- ~~14~~ 海外からの日本に対する評価
- ~~15~~ その他(具体的に: _____)
- ~~16~~ 現在心配していることはない

【すべての方に】

問25 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段など
 に対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)

テーマ：「日本のエネルギー事情」についてお伺いします

【すべての方に】

問 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 明るい	13 暗い
2 悪い	14 よい
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみやすい	16 親しみにくい
5 複雑	17 単純
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 不安	20 安心
9 必要	21 不必要
10 役に立たない	22 役に立つ
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気になる	24 気にならない
	25 その他（具体的に：)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問 あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 暗い	13 明るい
2 よい	14 悪い
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみにくい	16 親しみやすい
5 単純	17 複雑
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 安心	20 不安
9 不必要	21 必要
10 役に立つ	22 役に立たない
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気にならない	24 気になる
	25 その他（具体的に：)
	26 あてはまるものはない

※選択肢の順番を変える？

問 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 11 放射線による人体の影響 |
| 2 地球温暖化 | 12 放射線利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 13 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 14 高速増殖炉「もんじゅ」 |
| 5 太陽光発電 | 15 核燃料の製造加工 |
| 6 風力発電 | 16 省エネルギー |
| 7 バイオマス発電 | 17 放射性廃棄物の処分 |
| 8 核分裂のしくみ | 18 使用済燃料の貯蔵 |
| 9 原子力発電 | 19 原子力施設のリスク (事故・トラブルなど) |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 20 その他 (具体的に:) |
| | 21 特にない/わからない |

問 原子力やエネルギーの分野において、あなたが知っていることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1 <u>日本のエネルギー自給率</u> | <ul style="list-style-type: none"> ◎ ここを手厚く。 ◎ 文章で書くか、体言止めで書くか ◎ 難しすぎる！誰も○をつけれない。 ◎ 要検討 |
| 2 <u>地球温暖化の原因</u> | |
| 3 <u>電源のベスト・ミックス</u> | |
| 4 <u>原子力発電のしくみ</u> | |
| 5 <u>プルサーマル^{*2}や核燃料サイクル^{*3}のしくみ</u> | |
| 6 <u>高レベル放射性廃棄物とその処分方法</u> | |
| 7 <u>各国のエネルギー事情</u> | |
| 8 <u>原子力発電と原子爆弾の違い</u> | |
| 9 <u>自然界にある放射線について</u> | |
| 10 <u>放射線と放射能の違い</u> | |
| 11 <u>様々な分野での放射線の利用</u> | |
| 12 <u>放射線の量と人体への影響の関係</u> | |
| 13 <u>どれも知らない</u> | |

<※2プルサーマル> 原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。

<※3核燃料サイクル> 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。

このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

問 放射線利用の分野において、あなたが知っているものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 プラスチックの強化 | 6 CT スキャン |
| 2 花や植物の品種改良 | 7 非破壊検査 |
| 3 ガン治療 | 8 レントゲン |
| 4 食品への照射 | 9 医療器具などの滅菌 |
| 5 年代測定 | 10 その他(具体的に:) |
| | 11 特になし/わからない |

問 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|--|
| 1 石炭火力発電 | |
| 2 石油火力発電 | |
| 3 天然ガス火力発電 | |
| 4 原子力発電 | |
| 5 水力発電 | |
| 6 地熱発電 | |
| 7 風力発電 | |
| 8 太陽光発電 | |
| 9 廃棄物発電 | |
| 10 バイオマス発電 | |
| 11 その他(具体的に:) | |
| 12 あてはまるものはない | |

問 あなたは、原子力エネルギーに関する次の意見について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 原子力発電は必要である	→	1	2	3	4	5
2. 原子力発電は有用である	→	1	2	3	4	5
3. 核燃料サイクルは有用である						
4. プルサーマルは有用である						
5. 原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる	→	1	2	3	4	5
6. 原子力発電がないと、電気代があがる	→	1	2	3	4	5
7. 今後、原子力発電を利用していきべきである	→	1	2	3	4	5
8. 今後、原子力発電を廃止すべきである	→	1	2	3	4	5
9. できるだけたくさんの情報が国民に届くようにするべきである	→	1	2	3	4	5
10. わかりやすく情報を伝えるべきである	→	1	2	3	4	5
11. 些細なことでも隠さず伝えるべきである	→	1	2	3	4	5
12. 学校の授業で教えるべきである	→	1	2	3	4	5
13. 原子力の利用は暮らしの中で役に立つ	→	1	2	3	4	5
14. 原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないの で、地球温暖化防止に有効である	→	1	2	3	4	5
15. 化石資源を使い切ることやオイルショックが心配である	→	1	2	3	4	5
16. エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー 源が必要である						
17. 国産のエネルギーを増やすことは重要である						
18. 日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮 して、将来のエネルギーのことを考えなければなら ない。	→	1	2	3	4	5
19. 少しくらい生活が不便でも、省エネルギーは実践 されるべきだ						

20. 医療、工業、農業等における放射線利用は必要である る	→	1	2	3	4	5
-----------------------------------	---	---	---	---	---	---

問 現在、高レベル放射性廃棄物の処分※4について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

1 安心	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不安
2 どちらかといえば安心		5 不安

★もう少し拡充するか。

＜※4放射性廃棄物の処分＞ 原子力発電所で使い終わった使用済み核燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。これまで発生した高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。

なお、使用済み核燃料の処分方法については、現在、リサイクルせずに直接地層に埋設処分する計画も含めて再検討されています。

問 あなたが、原子力発電について不安と感じる事柄についてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 原子力発電所の事故	★不安についての質問を。
2 環境への放射線・放射能の漏えい	
3 地震や津波など自然災害	
4 原子力に関わる人や組織	
5 機械の故障	
6 行政機関や事業者の安全管理体制	
7 テロ	
8 その他(具体的に:)	
9 あてはまるものはない	

問 あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 自分のまわりの食品・水の放射能汚染	★不安についての質問になっていない。 ★体への影響とか。。。 ★規制基準、福島、食品、環境
2 子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響	
3 自然由来の放射線	
4 人工由来の放射線	
5 医療による放射線	
6	
7 大地からの放射線	
8 宇宙からの放射線	

- 9 食物からの放射線
- 10 空気中のラドンからの放射線
- 11 医療で受ける放射線
- 12 原子力関連施設周辺の放射線
- 13 その他(具体的に:)
- 14 あてはまるものはない
- 15 不安はない

問 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 信頼できる
- 2 どちらかといえば信頼できる
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば信頼できない
- 5 信頼できない

問 あなたが、問●でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- 1 専門的な知識を十分に持っているから
- 2 専門的な知識が不十分だから
- 3 偏った見方をしているから
- 4 公平な見方をしているから
- 5 正直に話しているから
- 6 正直には話していないから
- 7 私たちのことを配慮しているから
- 8 私たちのことには配慮していないから
- 9 私たちと考え方が似ているから
- 10 私たちとは考え方が違うから
- 11 熱意をもって、原子力に携わっているから
- 12 熱意が感じられないから
- 13 管理体制や安全対策が十分だから
- 14 管理体制や安全対策が不十分だから
- 15 情報公開が十分されているから
- 16 情報公開が十分されていないから
- 17 信頼したいから
- 18 信頼したくないから
- 19 その他(具体的に:)

問 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- 1 信頼できる
- 2 どちらかといえば信頼できる
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば信頼できない
- 5 信頼できない

問 あなたが、問●でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | | |
|----|---------------------|
| 1 | 専門的な知識を十分に持っているから |
| 2 | 専門的な知識が不十分だから |
| 3 | 偏った見方をしているから |
| 4 | 公平な見方をしているから |
| 5 | 正直に話しているから |
| 6 | 正直には話していないから |
| 7 | 私たちのことを配慮しているから |
| 8 | 私たちのことには配慮していないから |
| 9 | 私たちと考え方が似ているから |
| 10 | 私たちとは考え方が違うから |
| 11 | 熱意をもって、原子力に携わっているから |
| 12 | 熱意が感じられないから |
| 13 | 管理体制や安全対策が十分だから |
| 14 | 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 15 | 情報公開が十分されているから |
| 16 | 情報公開が十分されていないから |
| 17 | 信頼したいから |
| 18 | 信頼したくないから |
| 19 | 国や自治体は営利目的ではないから |
| 20 | 自分達の利益優先に感じるから |
| 21 | その他(具体的に: _____) |

問 原子力に関して、あなたは、国や自治体にどのような取り組みを望みますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------------|----|------------------|
| 1 | 事故原因の徹底究明 | 7 | 施設見学会の開催 |
| 2 | 情報公開 | 8 | 説明会の開催 |
| 3 | 事故に対する未然防止策の策定 | 9 | 展示館の設置 |
| 4 | 実務の公開 | 10 | 地域振興への協力 |
| 5 | 安全管理規制の強化 | 11 | 放射線管理の徹底 |
| 6 | 責任の所在の明確化 | 12 | 検査体制の強化 |
| | | 13 | その他(具体的に: _____) |
| | | 14 | 特にない／わからない |

問 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 博物館・展示館・PR施設
3 インターネット	8 その他(具体的に:)
4 ラジオ	9 あてはまるものはない
5 雑誌	

問 あなたは、原子力やエネルギーに関する情報源(メディア)として、何を信頼しますか？次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 博物館・展示館・PR施設
3 インターネット	8 その他(具体的に:)
4 ラジオ	9 あてはまるものはない
5 雑誌	

問 あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 政府関係者
2 専門家(大学教員・研究者)
3 評論家(キャスターなども含む)
4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
5 自治体職員
6 財団法人、社団法人などの公益法人
7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関
8 小・中・高等学校の教員
9 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
10 新聞・雑誌などの記者
11 政治家
12 非営利組織(NPO)
13 オピニオンリーダー(身近な知識人)
14 知人や友人
15 家族や親戚
16 その他(具体的に:)
17 あてはまるものはない／この1年間に有益性に関する情報は得ていない

問 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

【参加してみたいものはどれですか】

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)
- 9 その他(具体的に:)
- 10 あてはまるものはない

問 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも) **→★社会システム観を含む**

- 1 直感的・感覚的に判断することが多い
- 2 論理的に判断することが多い
- 3 精神的な豊かさより物質的な豊かさが大切だ
- 4 物質的な豊かさより精神的な豊かさが大切だ
- 5 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない
- 6 自然環境と調和するためには、社会生活の豊かさはある程度制限されなければならない
- 7 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい
- 8 科学技術、環境に関する問題は、専門家による委員会等で決定されるべきだ
- 9 科学技術、環境に関する問題は、住民による話し合い等で決定されるべきだ
- 10 科学技術が発展することで、人は豊かになる
- 11 高度な技術も科学技術で完全に制御できる
- 12 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない
- 13 社会の仕組みはますます複雑で分かりにくいものになっている
- 14 地域社会の豊かさは、ほかの社会との調和なしには実現しない
- 15 個人がそれぞれの幸福を追求すれば、経済は発展する
- 16 その他(具体的に:)
- 17 あてはまるものはない

問 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)

6. 3 第2回WG委員会

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」

第2回WG委員会 議事録

日 時: 平成 26 年 1 月 17 日(金) 18:00~20:00

場 所: パブリック・アウトリーチ事務所

出席者:

(委員長)

飯本 武志 東京大学 環境安全本部 主幹 准教授

(委 員)

木 村 浩 特定非営利活動法人 パブリック・アウトリーチ

齋 藤 朗 株式会社社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部
部長

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

(事務局)

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・理事

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

配付資料:

①議事次第

②出席者名簿

③「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」調査結果

1. 開会挨拶

事務局より開会挨拶のあと、議事次第に基づき審議に入った。

2. 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」調査結果について(p.45-131)

配布資料3に基づき、今年度の調査結果について説明した。

調査結果を踏まえて今後報告書にまとめていくというところで、二つほど重要な点があり、まずは調査結果を踏まえて何を読み取れるのか、もう少し深掘りした考察が重要ではないかというところ、さらにはそれに対しての広報的なアプローチをどのように考えられるのかというところである。そういったものにこのデータが有益なのではないか、これは気になるので調べたほうがいいのかなど、そういったお話をいただければと考えている。

また、今後インタビュー調査を予定しているので、調査結果の中で気になった点も含め、今後のインタビューで具体的にどういったところを聞いていくべきか、また、先日対象についてご意見も頂いたが、どういった方、何名程度、スケジュールもあると思いますので本日決めさせていただければと考えている。

まず調査結果のグラフだが、質問を大きく変更しているので、基本的に昨年度までの質問を参考に作成したものについては、左右のページに見開きで配置している。イメージのように変更していない場合は52、53ページのようにそのまま配置している。比較がある場合は57、58ページのような見開きの配置とし、左側に本年度の結果、右側に昨年度の参考データを掲載した。

大きな調査の結果としてだが、やはり信頼が事故の後低いという状況に変化がないという結果になっていた。かつ、若干、「信頼していない」や、「必要でない」という否定的な意見が増えているようにも見える気がしている。しかし、必要性に関する5段階の評価は文言が変更されているので、そういったところを加味しながら、実際のところを判断していければと考えている。

なお、質問票改訂に際して、ベネフィット認知とリスク認知の部分は拡充した。ベネフィット認知は高い割合が出ているが、知識の問題でエネルギー自給率の認知が低いなど、アンケートの性質上仕方がないとは思いますが、具体的にどこまでベネフィットが認知されているのか、どのように読み取ればよいかなども議論いただきたい。また、知識の質問は少しわかりにくかったかもしれないのだが、次年度以降反省を踏まえつつで変えたほうがいいのか、そのまま見ていった方がいいのかこのあたりも今後議論したいと考えている。

専門家や国や自治体への信頼の理由については、前回の参考でも聞いていた情報公開や管理体制に対する不信感が変わらず高い状況で、加えたものについてはある程度の数値は出ているが、この二つが信頼しない理由としては同じような状況であったという結果である。

発信者への信頼では、期待する人という質問を信頼する人という聞き方にしているが、専門家に対する評価が5割を超えている。ただし、これしか選べないのではないかという意見もあるため、媒体として信頼の高いテレビに専門家が出ればいいのかというわけではないので、深く分析をしていきたい。

(討議・委員コメント)

- どこまでの分析を望むのか、研究レベルになってくるのであればそのための質問を、時間をかけて作成しなければならないが、この調査は経年調査の位置づけもある。
- 専門家が信頼されているが、社会でどうふるまうべきか、というところは調査からは読みとれない。
- 研究レベルの分析をするには無理があるのではないか。WG委員もそういった分析を視野に入れて選定しているわけではない。

→調査をもとに、何が有効なのかという明確なものがほしい。たとえばインタビューで、専門家として信頼できないと思っていても実際に話してみたら考えてくれていたと気付いた、というような回答があったなど、インタビューで何か得ることができればと考えている。

- 他の調査も情報源としての信頼は専門家が出て、次が国際機関というのは一般的な結果だが、あてはまるものがないが25.3%は注目すべきところだと思う。
 - 他の調査でも同じような結果が出てきており、この調査でもまともな結果が出ている。
 - 専門家への信頼理由では、前回、信頼できる層の信頼理由で「信頼したいから」が34.5%、信頼できない層では「信頼できないから」が56.5%というところが差になるのかと思っていたが、今年度「信頼できないから」を「信頼したくないから」に変更したところ、信頼できない層で「信頼したくないから」という理由は14.4%と低くなった。信頼できる層の「信頼したいから」は37.9%と昨年度と同程度で高い。
 - 信頼できる層では「専門的な知識を持っている」、「信頼したいから」、「熱意」この三つが大きい。信頼できる層は信頼したいと思っていて、一方で、信頼できない層では正直に話していない、安全対策が不足している、情報公開が不足している、このあたりにピークが出ていて、それに続いて配慮のなさ、公平感がないという指摘がある。この構図だと、明らかに信頼できる層と信頼できない層が乖離している。どちらともいえない層では情報公開、安全対策の不足、正直に話していない、この3点が大きく出ていて、信頼できない層と同じような不満は持っている。ただ、信頼できるかどうかについて自分の中で決定していない。そういう層だと捉えることができ、潜在的には信頼できない層に近い。これを確認できたというのは大きいのではないか。
 - インタビューは一人どのくらいの時間のイメージなのか。
- 1時間半から2時間かかると考えている。
- 調査結果を見せて、意見交換をしながらということか。
- すべて調査結果を見せるかどうか、ポイントとなる場所、特に広報広聴に関するところに絞ることも考えている。
- どの調査結果がインタビューで使えそうかを選抜したほうがよいのかもしれない。それについて、それぞれの回答を専門家からもらって、報告書にまとめればよいのではないか。
 - 信頼の部分はしっかりと、こういう調査結果がでて、どう分析するのかというのは専門家に聞いたほうがいいし、事業者については今どういうことをやっていて、今後どうしようとするのか知りたい。
 - インタビューの対象も決まっていないので、どういう専門家なのかなどと出れば、その人に何を聞くかというのを議論が行なえるのではないか。
 - まずは質問を選ぶ作業と、対象を考えればよいのではないか。
 - 質問で気になっているところが、117ページ問17参加してみたいイベントや施設のどこ

ろで、あてはまるものはないが61.1%と非常に高くなっている。これは広報をしても意味がないという話になってしまうのか。

- 前回までは参加してみたいもの、理解に役立つものとしてやっけていて、参加してみたいもののみにした結果、数値が低くなっている。理解に役立つものと参加したいものは別だということがわかる。
 - 昨年度までで、選択肢は【参加してみたいもの】【理解に役立つもの】とカッコ書きで分けて書いていたが、それでも理解に役立つという言葉が質問に入っていないだけで影響してくるものなのか。
 - 質問文が最初にあるため、「理解に役立つもの」も意識しながらの回答になってしまう。
 - 昨年度までは安定している挙動が一気にずれて、今年度あてはまるものがないがこれだけ増えるのは、「参加してみたいもの」と聞くとこうなる、という結果である。これはこう聞いてみてよかったのではないか。
 - 興味がないということがわかったが、残念ではある。
 - 興味がある人にとって効果的なのは施設見学会であり勉強会であるというのが大きな二つである。事業者の広報担当にこの結果をどう受け止めるか聞いてみたい。
 - あてはまるものはない方を他の質問とクロスさせたほうがよいのか、それともこれが現状だということなのでインタビューに活用したほうがよいのか。
 - クロスをしても恣意的になってしまうので、クロスするのであればその質問をどうするかよく検討しないとイケない。
 - 60%を超えるのは残念だが、一般的に原子力やエネルギーに関するものには能動的ではないということか。
 - 興味のある人、40%の半分の人は施設見学会と勉強会を選択している。
 - テロ対策等で最近では発電所を見ることができない。これは困るのではないか。
 - 講演会と勉強会の違いはどう考えればよいか。講演会よりは小規模で、わからないことを教えてくれるような勉強会をしてほしいという理解でよいのか。
 - 勉強会は双方向、だが講演会(少人数、双方向)も双方向で違いがわからない。
 - 座談会のイメージなのではないか。大規模が一方通行で、二段目の勉強会は授業のようなもので、教えてくれて、かつ、わからないところに質問できる。
 - 講演会との差があるというのは見える。双方向で、質問のできるものが望まれている、そういうところが実は出てるという調査結果になる。
 - 60%があてはまるものはないというのは残念だが、40%の人の要望はこういうことだというのをわかったうえで広報を行なうというのは重要なのではないか。
 - 自由回答に具体的な要望など記載されていないのか。
- 自由回答は参考程度にとどめるべきだと思うが、昨年度までの自由回答の傾向は情報を隠している、わかりにくいという意見が多かったが、今年度は報道に偏りがあるというような意見も出てきている。また、今は原子力に頼るしかないという意見があり、印象

的であった。代替エネルギーどうするのかなどという意見は昨年度までに少なかったと思うので、ベネフィットとリスクを冷静に見ているのではないかと感じる。ただ、再稼働に賛成はしていないけど、しかたないから反対しないだけで本当は賛成したくないという意見があるとも読み取れる気がしている。

- 自由回答の配列はどのようになっているのか。
- 男女別、年齢別で並べてある。
- 情報公開する必要がないという意見もあり興味深い。
- 自由回答の中の広報に関連しているのをピックアップして、具体策を検討してはどうか。
- 自由回答を扱うとしたら、回答者がどういう回答をしているか、その傾向を分析しなければいけない。また、書きたい人だけが書いているので自由回答の意見が代表ではない。それを十分に理解して使わないと危ないので、統計として使用するのは難しい。
- 79ページ問7の放射線利用の必要性は、なぜ低くなったのか気になる。
→質問の表現が変わっている。昨年度までは「医療、工業、農業等における放射線利用」という選択肢に対して「必要である」から「必要でない」までの5段階評価をしていたが、今年度は「医療、工業、農業等における放射線利用は必要である」という意見に対して「そう思う」「そう思わない」という評価をしてもらっている。
- 質問が違うので経年の変化として議論しない方がよい。
- 医療利用が入っているのにこのような結果になるのか。
- 放射線利用について医療以外の認知度は低い。必要だと思いますか、と今まで聞いていたときは、知らなくて、そこまで必要性を感じていない人でも丸が付けやすかったという状況はあるのではないか。
- 質問を変えることで中立になったのかもしれない。医療については必要だけどそれ以外のところは知らない、または知らない。
- 農業のところで使われているのは知らないのではないか。
- 59ページ問5の放射線分野の知識だと、レントゲンの認知度は非常に高いが、昨年度関心として聞いていた参考データを見ると、関心度が低いという差が出ている。顕著な例だが、これは違うもの聞いているので、そういう意味でその文章としての意見の同意を求める場合と、そのトピックが必要かどうかと聞かれる場合は結果が異なる。
- 医療だけであれば伸びるのでは。混ざっているからどちらともいえない、イエスとノーが混ざっているのではないか。
- 医療利用はかなりの人たちが知っているなので、そのほかの利用と一緒にして放射線利用と聞いてしまうようになってしまう。
- 知識について、57ページ問4の調査結果は原子力関係の人に意見はいただきたい。日本のエネルギー自給率は4%という認知度が12.3%。原子力を国産に入れれば15%なので、そう考えている方が選択しなかった可能性もあるが。

- エネルギー自給率は低い、という選択肢にしたら高かったのではないかな。
- エネルギー自給率について、一般の方は知っているのかな。
- 国でも最低限の知識を持ってほしいという意見があり、エネルギー自給率4%というのは国民の中で意識として共有していないと何の議論もできない。
- 日本のエネルギーを考えていくときに、自給率に対する認知度の低さはかなりのハードルになるのではないかな。
- 中学生は食料自給率について学習していても、エネルギー自給率になると、個人によって知識に偏りが出てしまう。
- 再稼働していきなり、原発全廃にするという話をするなり、ベースとなる自給率を知らないと、経済性や熱効率などの説明をしても伝わらないのではないかな。
- もう少し認知度が高くないと困るのではないかな。
- 具体的な4%という数字が出ているので、認知度の低さに影響している。
- 温暖化は認知度も高いし、問3の関心も高いが、徐々に関心が減少傾向にある。温暖化の広報をしていないからなのか。
- 温暖化への関心については、他の調査でも低くなっている。
- 廃棄物の処分に対する関心は上がっている。調査の前に小泉元首相が廃棄物の処分が決まっていなかったと発言していたタイミングなので、報道が増えたよなという感触は少しあり、メディアからの影響が出やすいのではないかなと感じる。
- 廃棄物の処分に対する関心は他の調査で少しずつ上昇している。福島第一の廃棄物とかをどうするかという議論もあったので、必ずしも高レベル廃棄物への関心ではないかもしれない。
- 医療利用は35%程度あったものが、現在20%程度になっていて有意に落ちている。放射線利用の知識は医療利用で高いのに、関心は低いということか。
- 日本語で「関心」というと「不安」と直結していて、0.7くらいの相関を持っている。そういう意味では不安感、特にリスクをはらむ不安感が高いと関心が高くなる。医療利用はかなり定着をしてきたので、不安感が減ってきてつつあると読みとってよいかもかもしれない。
- 地球温暖化も、話題に上らなくなって、温暖化への不安感が沈殿してしまっただけで関心が薄れたとも考えられる。
- 不安がないというのが社会的にいい状態かというところではない。不安はお茶の中にある茶葉みたいなもので、つつくと広がるが、時間がたつと沈殿する。本当は不安が出た時にお茶の葉をすくってあげないと、不安はとれないというイメージがある。不安が出た時に関心が高まるので、不安に対して対処することが本当の意味での不安の対処になる。時間がたって、関心がなくなった、不安がなくなったというのは不安が解消されたとはいえない。
- 地球温暖化も言われなくなったからかもしれないし、地球は寒冷化だという説が巷であるのかもしれないので、はっきりとはわからない。

- だいたいのイメージはつかめたが、インタビューの対象や使用する調査結果についてはどうすればよいか。
 - 広報手法という話をするならば、知識の部分と信頼の部分は必要なのではないか。参加してみたいもの。あとは、116ページ普段の情報源、114ページ国や自治体へ望む取りくみも対象によっては使用できるかもしれない。
 - 106ページたくさんの方が国民に届くようにする、108ページわかりやすく情報を伝えるべき、110ページ些細なことでも隠さず伝えるべき、112ページ学校の授業で教えるべきというところは高位安定なので聞かなくても良いのではないか。
 - 最初の質問作成の際にインタビューした対象は地位のある人、慣れている人が多い。あまり慣れていない方でも、よい意見が聞けるのではないか。
 - 事業者の広報をやっている人には聞いておきたい。
 - 原子力ではなく広報という意味では、広告代理店も対象にしてはどうか。
 - メディア関係者、ジャーナリストも入れたほうがよいのではないか。
 - リスクコミュニケーションの専門家にも、どのようにしたらよいのか意見を聞きたい。
 - 一般の目線として、立地地域の住民を対象にしてはどうか。
 - 新聞でも社会と論説では異なる場合がある。その立場によってどう見えるか聞いてもよいのではないか。
 - 学校の切り口はいらないのか。教育の視点でも重要なのではないか。
 - 学校の授業はものを伝えるという意味で、広報のようなもの。
 - 見学会とかクラブ活動の延長で実施できるものがあるとよいとか、学校の先生としてどのような仕組みがあるとよいということを聞くことができればよいのではないか。若い世代に対する切り口で話してくれる方がいれば。
 - 学校で放射線をどうやって教えるかは難しい問題。専門的知識を要する部分もある。学校の現場でどのようなニーズがあるのか、教員対象の何かが必要があるのか、そういったところもあるかもしれない。
 - 指導要領がないと実施できないというのはあるのではないか。
 - 実際に現場にいる方のほうがよいのではないか。
 - 自治体にもインタビューしてはどうか。
 - 次回の委員会が2月3日なので、調整をして引き受けていただける方がよい。
- 事業者、教育関係者、報道関係者、リスクコミュニケーション専門家、自治体関係者、地域住民、広告代理店を対象に、次回委員会までにインタビューを実施することとする。

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第二回WG委員会 議事次第

と き： 平成 26 年 1 月 17 日（金）
18：00～20：00
と ころ： パブリック・アウトリーチ事務所

18:00 開会
18:00～18:05 財団挨拶（事務局）
18:05～18:20 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」調査結果報告（事務局）
18:20～19:20 審議（委員）
19:20～19:30 インタビュー調査対象者およびインタビュー内容の検討について（事務局）
19:30～20:00 審議（委員）
20:00 閉会

配布資料

①議事次第

②出席者名簿

③「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」調査結果

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第二回WG委員会
出席者名簿

【委員長】

飯本 武志 東京大学環境安全本部 主幹 准教授

【委員】(50 音順・敬称略)

木村 浩 特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ 研究広報調査部 研究統括

齋藤 朗 株式会社社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部長

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

【事務局】

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・理事

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

6. 4 第3回WG委員会

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」

第3回WG委員会 議事録

日 時: 平成 26 年 2 月 3 日(月) 18:00~20:00

場 所: パブリック・アウトリーチ事務所

出席者:

(委員長)

飯本 武志 東京大学 環境安全本部 主幹 准教授

(委 員)

木 村 浩 特定非営利活動法人 パブリック・アウトリーチ

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

(事務局)

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

配付資料:

- ①議事次第
- ②出席者名簿
- ③「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」インタビュー結果
- ④報告書章立て(案)

1. 開会挨拶

事務局より開会挨拶のあと、議事次第に基づき審議に入った。

2. 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」調査結果について(p.132-141)

事務局より、インタビュー結果の概要について報告を行い、気になる点についてご意見をいただきたい旨説明した。

(討議・委員コメント)

- ・インタビュー結果の全体の傾向を見て、委員としてどのような提案策があるかというのを多面的な方法で確認しながら広報手法を検討すればよいのではないか。
- ・多くの方が気になった質問、反応が多い問題をピックアップしてそれぞれの結果に対してどのような意見があったか、傾向や立場による違いを整理してはどうか。
- ・調査手法に対する意見は、今後の調査設計に生かせばよい。
- ・危険で不必要と考えているのなら広報のやりようがない、という意見がある。不必要とい

うところをどうにかしなければいけないのではないか。

- 調査結果のうち意見が多く出たもので、立場によってその内容が異なるようであれば、どうするか検討するポイントになる。たとえば、専門家と住民の意見が異なっている場合など。また、同じことを全員が言っているのであれば、それは共通認識されていることとして扱える。
- 具体的な情報発信方法について検討するのであれば、何を情報発信するのというところもあるが、結局5W1Hが必要になるのではないか。
- 57ページ問4知識の問題で、実際にエネルギー戦略上传えていかなければならないことは決めておいた方がよいのではないか。
- インタビューで地域住民から説明が一部分で全体のどこの位置かがわからないという意見があった、情報を発信する立場によって、扱う範囲が限られてくる場合がある。地層処分であれば、エネルギー自給率の話にはならず、地層の話や放射線管理の流れで半減期の話をする。目的に応じたところだけの説明になってしまうことに対する示唆とも受け取れる。
- 学校は知識のベースラインを整える役割があり、学校への期待も高いのだが、学校には学校の事情がある。学習指導要領に載っていないことを行なうのは難しい。
- 事故の前は考えさせる授業もあったが、今は難しいのではないか。
- 小中学生に対するような説明が聞きたいというのは、大人と子供を分けて考えず、基軸になるのは義務教育の年齢にわかるような説明の仕方を確立しておいた方がよいということなのではないか。使う資料は同じ内容レベルを用意したほうがよい。
- 小中学生に対する説明については、学校では子供に知識を教えていると一般の方は思っているようだが、学校でやっているのは、科学の概念を教えているのが実際である。例えば、条件制御、要因抽出、そういった概念を教えるために振り子の原理に当てはめる。そういった中でいろいろな解釈ができるものは排除されている。
- 一般の方が小中学生に対するような、と言うときには、いわゆるわかりやすいという意味になるのではないか。中学生がわかる説明というのはよく使われるが、実際に小学校や中学校でどう教えているかを考えているわけではない。
- ある意味では、中学生くらいだと、 $A+B=C$ という公式があったらそれを覚えて応用するということになる。そういったわかりやすさが求められているということになるのではないか。
- 政治とか宗教とかの立場を持ち込むと議論ができなくなる問題がある。データがほしいという意見は、価値観前提の説明ではなく、結果に結びつくまでのデータを示してもらわないと納得できないという事なのではないか。
- 求められる事も様々なのではないか。科学者として、コンセンサスが取れているところだけを説明してもらいたい、安全なのか、正しいのかは政治の話になるのでやらないでいいという意見もある。そうした場合、価値観に触れないで淡々と事実を述べてもら

えることがよかったという評価がされる。一方で、コンセンサスが取れている説明だけでなく、科学者として、どのような意見なのか、専門家がYesというかNoというかが知りたかったという評価も多くある。

- 淡々と科学的概念を話したつもりでも、誘導なのではないか、都合の悪い科学的な事実を隠しているのではないかという不信感を持っている方もいる。
- 本来専門家が専門家だという所以は最後の一言があって専門家なのではないか。解説で終わるのか、どうか。
- 関心が高く国際放射線防護委員会の報告書を勉強する方もいる。また、名前を知らないような「専門家」が国際的に認識されていないような説を語り、それを一般の方が聞いて信じることもある。一般の方は心配で一生懸命調べているので、ただ間違いだと否定して議論してもうまくいかない。相手への配慮が必要になる。そういった方の関心や疑問は異なるのでは小中学生にわかるような説明とは別に考えるべき。
- 信頼の理由として高いのは身近な人を思い浮かべて言えるような項目なのではないか。知っていて、顔の見える個人とか、地域で住民と接している事業者のことは信頼できるし、しようと思っている。だが、事業者でいう役員のような人が出てくると信頼できない、そういうことがあるのではないか。専門家でも、著名な大学の先生よりも、自分の専門分野の中で一生懸命説明している人に対して信頼感があるという結果ともよみとれるのではないか。
- 専門家が頑張るべきという意見があったが、組織として広報の窓口を一本化している場合もある。決められた資料だけを使うこともある。それももしかしたらインタビューで出てきた能面という言葉につながるのかもしれない
- 原子力を推進していると思われるだけで信頼されなくなるような風潮もあったのではないか。そのため意見が言えない。
- 学会ではOBが活動している場面があった。
- OBに情報を提供して、地域の相談役のような形で情報を発信してもらうのもよいのではないか。
- 学会活動に対する期待は大きかったのではないか。自由な議論ができる、いろいろな人がいるので批判に耐えられるという学会の良さがある。
- 茨城県などは研究施設が多いため、最初から県内に詳しい人がいてあまり混乱しなかったのではないか。過去にJCO事故があり、その際に手厚く説明等がされていたこともあるかもしれない。ただ、全国で特に立地地域外となると詳しい人が身近におらず、普段から手厚く説明するのは難しい。
- 全国的な話になると、実際に専門家が身近にいるかという問題もあるが、原子力そのものが身近なのかということもある。原子力は関係ないと考えている人もいる。そういった人に専門家が近くにいると何をできるのか。
- 原子力を推進する立場の人は自分が何とかしなければと思っているが、一般の方のこ

とを考えないで自分たちがやるという態度は一般の方から受け入れられないという意見がある。

- 一般の方は知識が偏っている、だからこう判断している、と推進する側の人間が思い込んでいるのではないか。その考え方自体に客観性がないのではないか、という指摘だと考えられる。一般の方はいろいろな情報を、バランスを見ながら得ているのに、知らないで言っていると思い込んでいるところにギャップがある。
- 知識の調査結果のデータを見ながら、どのようなことを伝えようかと考えるのではなく、データを持っていない状態で、思い込みで動く専門家がだめだということであれば、この調査結果を広く伝えてはどうか。
- 関心の高い一般の方については、自分で考えたいから情報がほしいという意見なのかもしれないが、一方で無関心な方もいる。
- 原子力発電を即廃止という意見がある時に、それを判断するために背景に何があるのか、そこに応えられるデータがどこにあるのか、関心のある方が探すことができないと意味がない。そこを示さずに専門家が自分たちで解決すると考えているとしたら、専門家の思い上がりだということになってしまう。
- 反論しても意味がないと思って説明をせずに、放射線の説明をしても意味がないという事なのかもしれない。
- 意見が分かれた時に、その都度対立軸の意見を言う専門家同士が相手の間違いを指摘しているだけではやりづらい。特にささいな事だと考えた場合、そこへの反論に時間をかけるよりは、もっと大事なことをと説明したいと考えてしまうのではないか。
- そうすると限定した情報しか見せていないということになり、全体の情報がほしいという意見につながる。自給率4%についても、その内訳であるとか、自然エネルギーが大切という結果がでているのに4%しかないのが何故か、などの情報も説明しなければいけない。
- 温暖化に対する意見も多い。原子力と関連付けていたため温暖化について報道されなくなったというような意見もあった。
- 学校では学習指導要領の改訂があり、調べ学習をする総合的な学習の時間が少なくなっている。また、長いスパンで見ればゆるやかな気象変動という説もあり、明確な答えがないため、温暖化が教材になりにくい状況がある。今は持続可能な社会として、過去の石油石炭を使い、有害なものを出しているが、そのつど生産されながらまわっていくにはどうすればいいのか、と緩やかに終わっている。
- 温暖化しているかどうかは問題ではなく、人間活動で出す二酸化炭素の量が地球が処理できる量より多くなったことについて、地球全体の許容量を超える人間活動を今後受容するのかどうかという哲学的な部分が一番の問題になる。それが地球全体を人類がコントロールするんだというのであれば、温暖化もコントロールしながら、寒冷化もコントロールするとなる。あるいは自然を享受するべきで人間が関与すべきでない等の

哲学であれば二酸化炭素を減らすストーリーは考えなければならない。

- メディアとの関連についても意見も多かったが、報道というのは情報の話題性が優先されて情報の公平性で結論を出さないという性格を持っている。
- 報道と言っても、新聞社の社会部なのか科学部なのかという立場の違いもある。
- GoHooという団体に、日頃のニュースをチェックしているサイトがあり、科学技術に関してもそのような活動も必要だという意見もあった。
- 原子力学会ではメディア向けの勉強会は続けているが。
- 大々的に、国が行なってしまうとメディアの監視になってしまう。GoHooというサイトが機能しているのは、社会的に公平だと思われる弁護士が主宰しており、自主的に取り組むボランティア団体だからというのがある。
- 間違った記事があったら訂正を当事者がするのが効果的だという意見もある。専門家は一部しか説明しないという意見と関係があるのではないか。
- それぞれが議論すればするほど盛り上げているように、面白くさせているように見えてしまうこともある。おかしいと考えているなら行動をしなければいけないということなのだろうが淡々と議論しなければならない。
- 当事者というのは、ほんとうにその現場の人だということのようだ。現場の人間が訂正することで、その人の熱意が伝わって理解につながる。伝える人のバックデータがわからないと信頼はできない。それだからこそ、現場の人が訂正する意味がある。
- やはり信頼ベースで分かれていて、誰がどこにいるのか意識しながら考えればよいのではないか。
- 信頼に関する質問では、今何が望まれているのかわかるという評価もあった。信頼の軸をもう少し洗練して、5段階で評価すれば信頼をさらに縦軸横軸に落とし込めていけるかもしれない。

3. 報告書章立て(案)について(p.241)

事務局より、報告書章立て(案)について説明を行った。また、これまでの議論を踏まえ、考察を行うこと、委員のコメントについては2/14(金)までにご提出いただきたいことを説明した。

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第三回WG委員会 議事次第

と き： 平成 26 年 2 月 3 日（月）
18：00～20：00
ところ： パブリック・アウトリーチ事務所

18:00 開会
18:00～18:05 財団挨拶（事務局）
18:05～18:20 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」インタビュー結果報告（事務局）
18:20～19:40 審議（委員）
19:40～19:50 報告書章立てについて（事務局）
19:50～20:00 審議（委員）
20:00 閉会

配布資料

- 議事次第
- 出席者名簿
- 「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」インタビュー結果
- 報告書章立て（案）

「平成 25 年度原子力利用に関する世論調査」
第三回WG委員会
出席者名簿

【委員長】

飯本 武志 東京大学環境安全本部 主幹 准教授

【委員】(50 音順・敬称略)

木村 浩 特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ 研究広報調査部 研究統括

富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

【事務局】

船越 誠 日本原子力文化振興財団・広報調査部長

真壁 佳代 日本原子力文化振興財団・広報調査部課長

鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・広報調査部

目 次

はじめに

第1章 概要	1
1.1 調査の目的	
1.2 調査内容	
1.3 調査の流れ	
1.4 ワーキング(WG)委員会の設置	
1.5 透明性、有益性の確保	
第2章 質問票の設計	7
2.1 質問票の設計	
2.2 世論調査票	
第3章 サンプルングと調査実施	37
3.1 調査の目的	
3.2 調査モデル	
3.3 サンプルング	
3.4 調査実施	
第4章 調査結果の分析	41
4.1 データの分析	
4.2 世論調査結果に関するインタビュー	
第5章 考察	143
5.1 考察	
5.2 委員からのコメント	
第6章 WG委員会の設置と調査内容の検討	161
6.1 WG委員会の開催	
6.2 第1回WG委員会	
6.3 第2回WG委員会	
6.4 第3回WG委員会	

付録 平成 25 年度世論調査 基本集計表